

Canon

EOS 7s



日本語



EYE CONTROL



使用説明書



キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 7sは、視線入力・7点AF機能を搭載した高性能AF一眼レフカメラです。簡単な全自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手に取りながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、『取り扱い上のご注意』(6)をお読みください。

この使用説明書は、必要なときにいつでも取り出せる場所においてご活用ください。

ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に作動することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがありますのでご注意ください。また、EOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

本文中のマークについて

-  撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。
-  基本操作に加えて知っておいていただきたい事項や、カメラ操作上、または撮影時のヒントが書かれています。
-  それぞれの機能に関するカスタム機能の簡単なガイドが書かれています。詳細については、『カスタム機能で変更できる内容』(85)を参照してください。

目次

はじめに	
取り扱い上のご注意	6
すぐ撮影したい方のために	8
各部の名称	10
本使用説明書上のおことわり	16

1 撮影前の準備と基本操作 17

電池を入れる	18
電池容量を確認する	19
レンズを取り付ける／取り外す	20
取り付け方	20
取り外し方	20
シャッターボタンとオートフォーカス	21
📷 フィルムを入れる／取り出す	22
入れる	22
フィルム感度の設定確認	23
取り出す	24
🔄 途中巻き戻し	24
鮮明なファインダーに調整する	25
カメラの構え方	26

2 カメラまかせの自動撮影 27

☐ 全自動で撮る	28
内蔵ストロボによるAF補助光について	29
イメージにあわせて撮る	30
👤 ポートレート	30
🏞️ 風景	30
🌸 クローズアップ	30
🏃 スポーツ	31

🌃 夜景ポートレート	31
👁️ 赤目緩和機能を使う	32
🕒 セルフタイマーを使って撮る	33
アイピースカバーを使う	34
日付／時刻を入れて撮る	35
設定する	36
デート用電池の交換	36

3 オートフォーカス(AF)と測光方式...37

AFモードの選択	38
止まっている被写体を撮るときは ワンショットAF	39
動いている被写体を撮るときは AIサーボAF	39
AFモードを自動的に切り換える AIフォーカスAF	40
📷 AFフレームの選択	41
AFフレーム選択の基本操作	41
自動選択	42
任意選択	42
CAL 視線入力AFの準備	43
自分の目の視線特性を登録する (キャリブレーション)	43
キャリブレーション・視線入力AFのコツ	46
視線特性の学習機能	46
登録した視線特性の消去	47
👁️ 視線入力AFで撮る	48
視線サーボAF	49
視線入力AFの解除	49
画面の端の被写体にピントを合わせる	50

AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ) ...51

MF 手動でピントを合わせる
(マニュアルフォーカス)51

☒ 測光モードの選択52

4 撮影目的にあわせた応用撮影53

P プログラムAE撮影54

Tv シャッター速度を決めて撮る56

Av 絞り数値を決めて撮る58

被写界深度を確認する59

M 自分で露出を決めて撮る60

DEP ピントの合う範囲を決めて撮る...62

選択したAFフレームによる方法...62

視線入力AFによる方法64

自分の好みに露出を補正する67

☑ 露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影...68

AEB撮影の解除69

✳ 露出を固定して撮る/AEロック撮影...70

長時間露光(バルブ)撮影71

☑ 多重露出撮影72

☑ 巻き上げモードの選択73

ISO フィルム感度の手動設定73

🔊 カメラの電子音を消す74

☑ 表示パネルの照明74

ミラーアップ撮影75

📶 ワイヤレスリモコンを使って撮る76

リモートスイッチを使って撮る76

5 ストロボを使った撮影77

内蔵ストロボを使用した撮影78

簡単撮影ゾーンでの撮影78

応用撮影ゾーンでの撮影78

☑ ストロボ調光補正80

EOS専用外部ストロボを使用した撮影...81

EXスピードライト使用時81

EZ/E/EG/ML/TLスピードライト使用時...81

6 カスタム機能(C.Fn)83

C.Fn カスタム機能の設定84

カスタム機能で変更できる内容85

資料89

写真の基本用語解説89

撮影機能の組み合わせ一覧91

AEロックの効果92

AFモードと巻き上げモードの関係92

プログラム線図93

「故障かな？」とお考えになる前に94

主な仕様95

索引98

取り扱い上のご注意

手入れと保管について

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。また水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーン、フィルム室内などにゴミが付いているときは、市販のプロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。
- シャッター幕は非常に薄い幕でできています。お手入れには必ずプロアーを使用し、あまり強く吹かないでください。強く吹くとシャッター幕の変形や破損の恐れがあります。またフィルムを出し入れする際にもシャッター幕に触れないようご注意ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐蝕の原因となることがあります。腐蝕が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを長期間使用しないときは、電池室から電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐蝕などの原因となるため避けてください。また同様にタンスの中なども避けてください。
- 長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのお客様相談窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルについて

液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

電池について

- 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよくふき取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- リチウム電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

電圧の低下とカメラの作動について

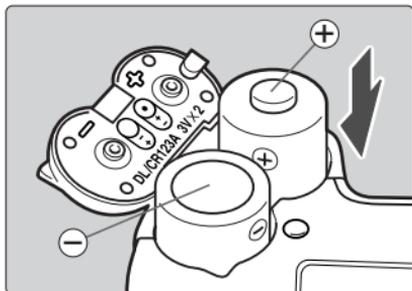
表示パネルの<⏻>が点滅または無表示になっても、シャッターが切れば適正な写真が撮影されます。ただし、電池の容量が低下してくると、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあり、表示パネルに<⏻>が点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは<⏻>ボタンを押せば継続されます。

レンズの接点について

レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

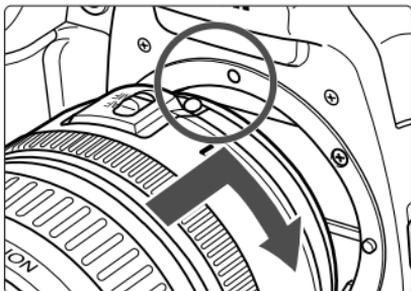


すぐ撮影したい方のために



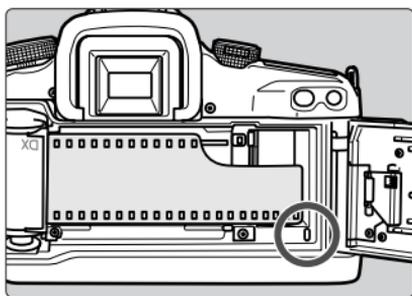
1 電池を入れる

電池室ふたの表示にしたがってCR123Aリチウム電池を2本入れます。(18)



2 レンズを取り付ける

レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。(20)



5 フィルムを入れる

フィルムの先をオレンジ色のマークに合わせ、「パチン」と音がするまで背ぶたを閉じます。(22)

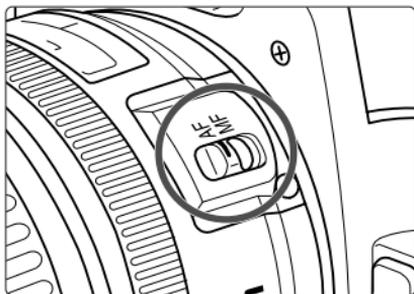
- 最初の撮影コマまでフィルムが巻き上げられます。



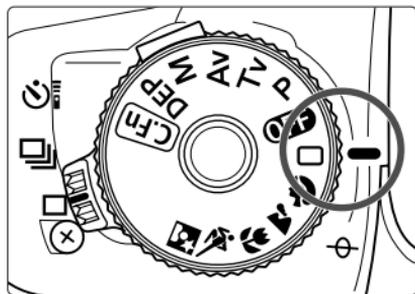
6 ピントを合わせる

写したいもの(被写体)にAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。(21)

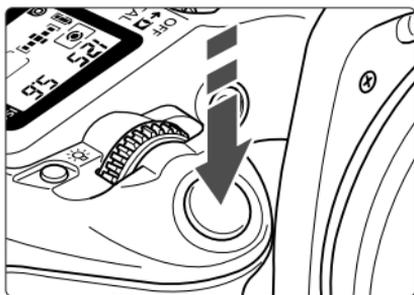
- 暗いときや日中逆光時には、内蔵ストロボが自動的に上がります。(78)



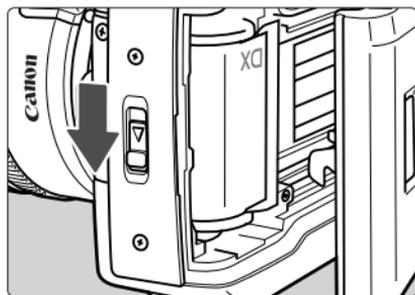
- 3** レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする
(20)



- 4** モードダイヤルを〈□〉(全自動)にする
モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら回します。
(28)



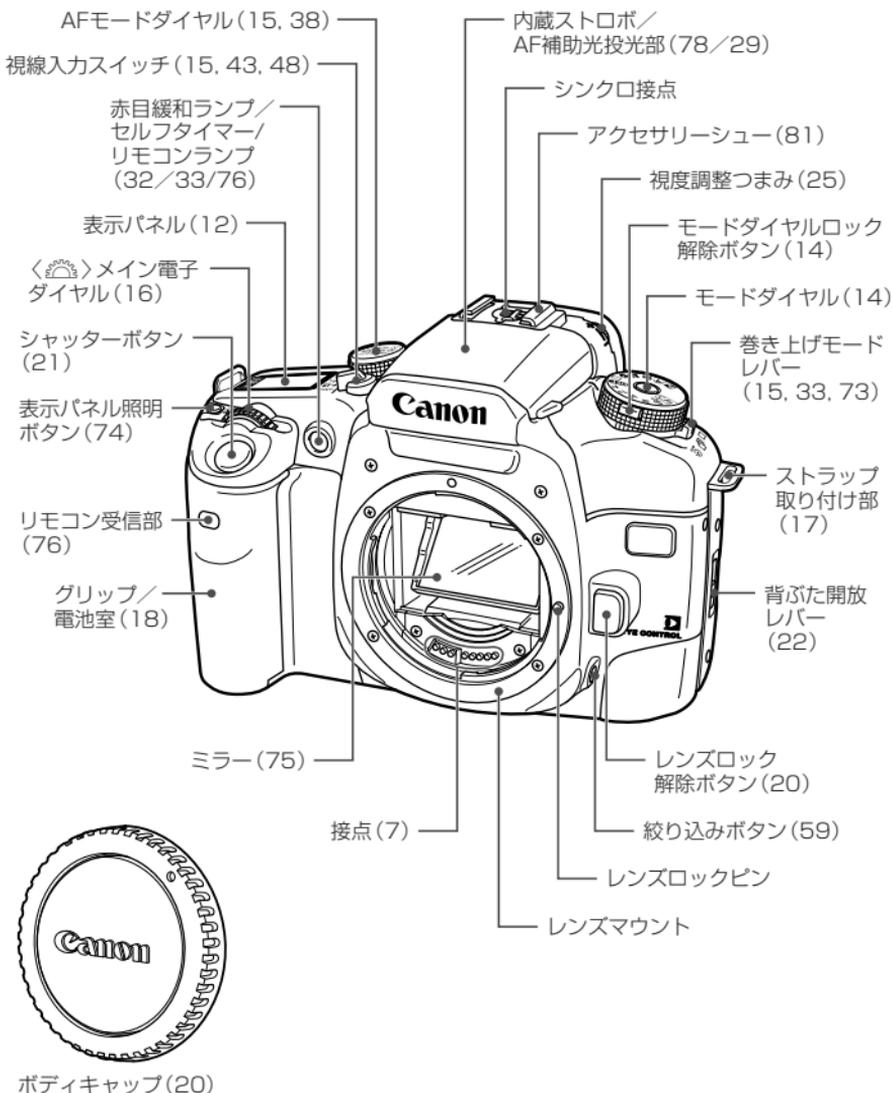
- 7** 撮影する
さらにシャッターボタンを押して撮影します。(21)

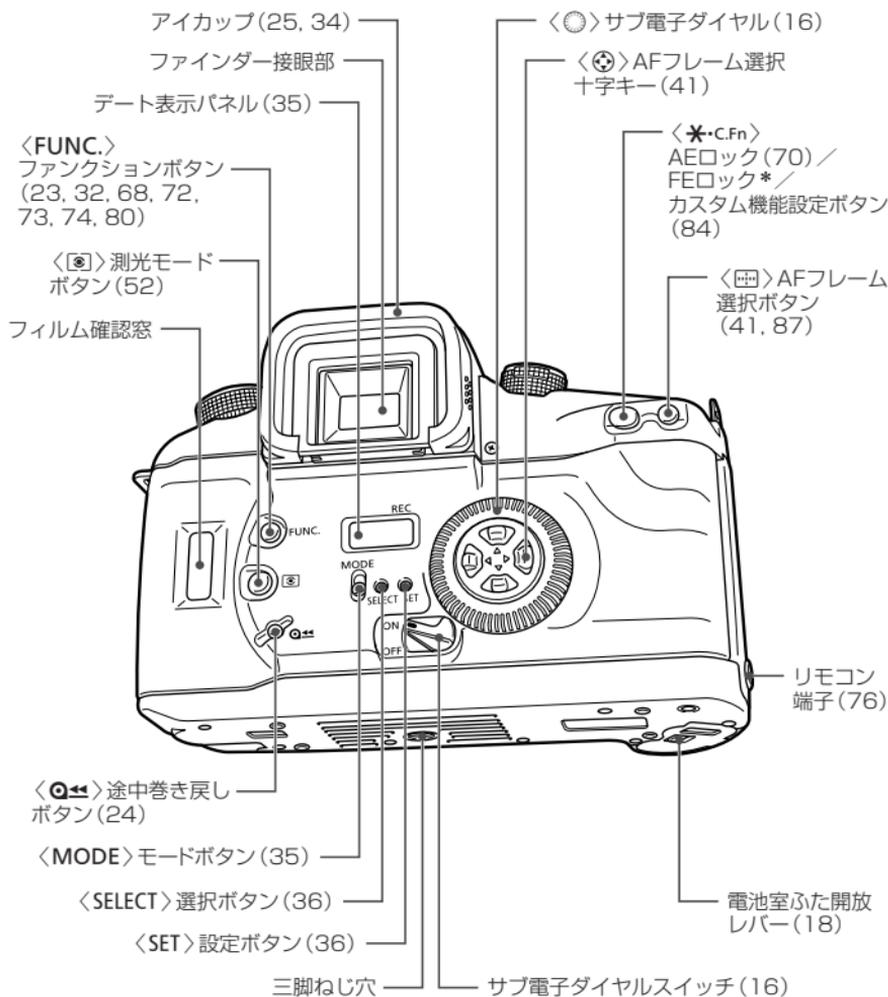


- 8** フィルムを取り出す
フィルムを撮り終わると自動的に巻き戻しが始まります。
背ぶたを開けてフィルムを取り出します。(24)

各部の名称

- (**)の**部は、参照ページを示しています。
- 本文中では各部の操作を〈 〉内のマークを用いて説明しています。

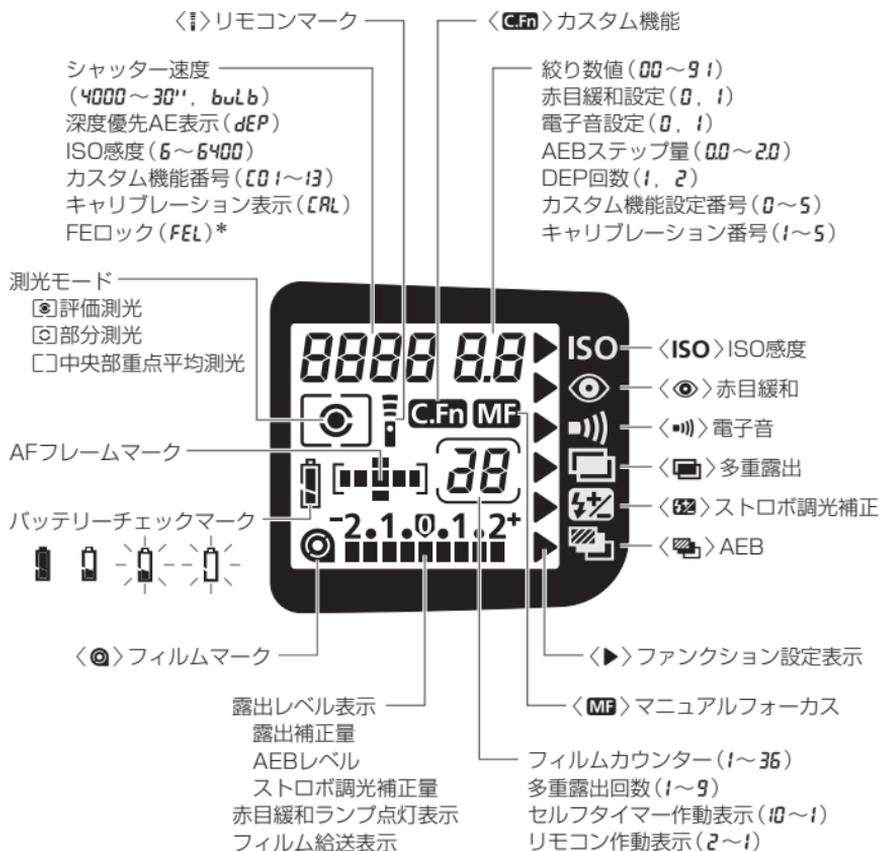




* EXスピードライト使用時

各部の名称

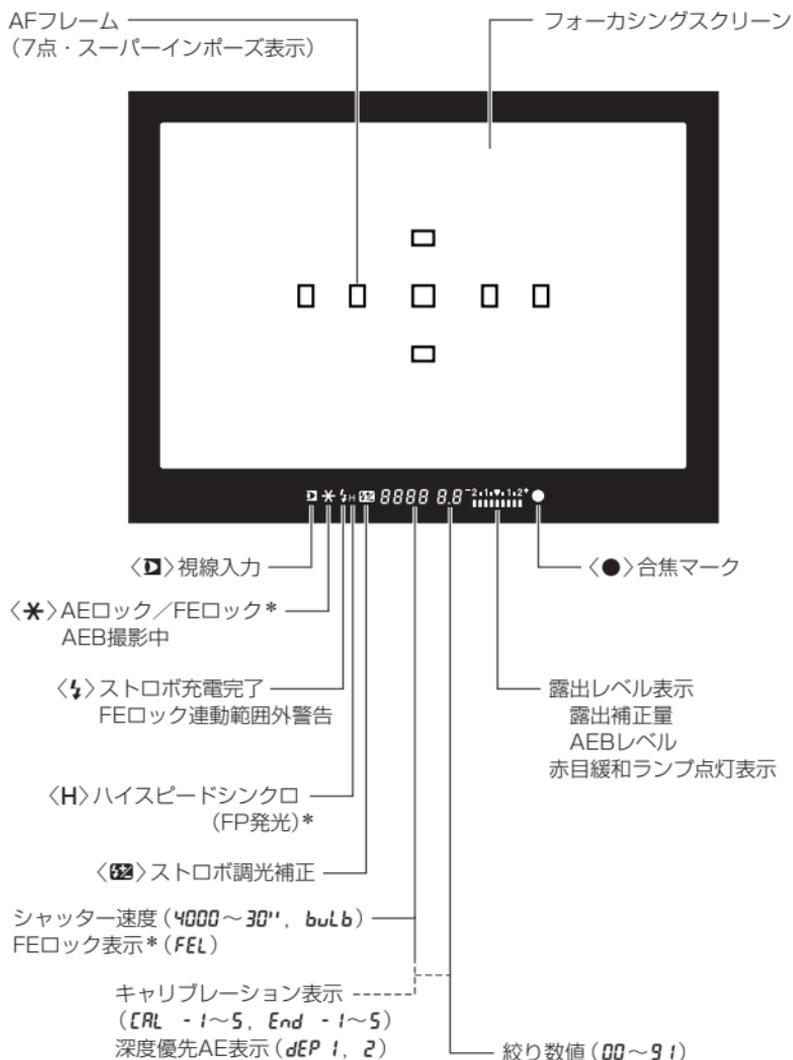
表示パネル



* EXスピードライト使用時

● 表示は状況に応じた部分のみ表示されます。

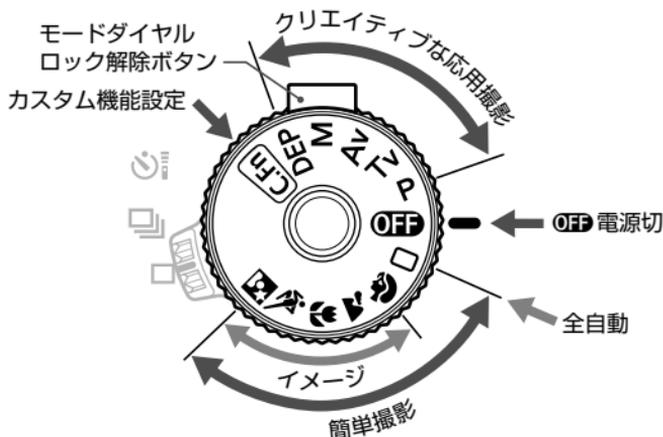
ファインダー内表示



各部の名称

モードダイヤル

- モードダイヤルは2つの撮影ゾーンに分かれています。
- モードダイヤルは<OFF>でロックされます。ロックを解除するときは、ロック解除ボタンを押しながら回します。



① 簡単撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

□ : 全自動(28)

カメラまかせの全自動撮影ができます。

イメージゾーン(30)

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

👤 : ポートレート

🏞️ : 風景

🌿 : クローズアップ

🏃 : スポーツ

🌃 : 夜景ポートレート

② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思い通りのさまざまな撮影ができます。

P : プログラムAE(54)

Tv : シャッター優先AE(56)

Av : 絞り優先AE(58)

M : マニュアル露出(60)

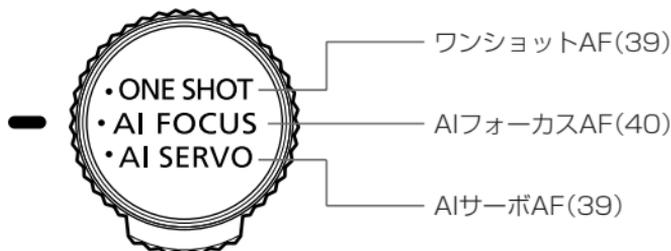
DEP : 深度優先AE(62)

③ カスタム機能設定

C.Fn : カスタムファンクション
(83)

④ OFF : 電源切

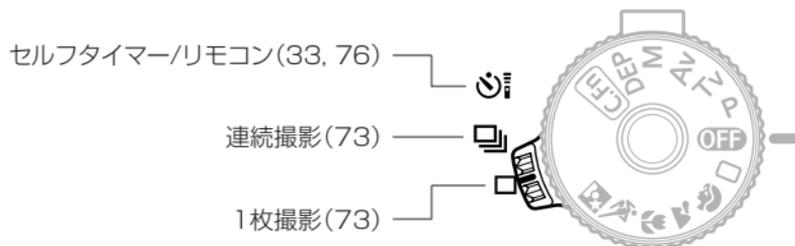
AFモードダイヤル



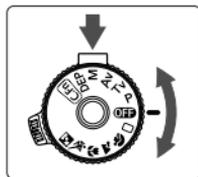
視線入力スイッチ



巻き上げモードレバー



本使用説明書上のおことわり



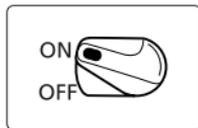
- モードダイヤルが〈OFF〉以外になっていることを前提に説明しています。各操作をする前に、ロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを撮影モードにしてください。



- 本文中の〈〉はメイン電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉はサブ電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉はサブ電子ダイヤルスイッチを示しています。〈〉の操作は、〈〉スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています。操作する前に〈ON〉になっていることを確認してください。



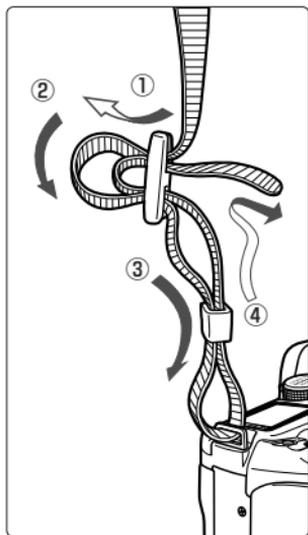
- 本文中の〈〉はAFフレーム選択十字キーを示しています。

- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。
- (**)の**部は、参照ページを示しています。
- ページタイトル横の★マークは、応用撮影ゾーン(P、Tv、Av、M、DEP)限定の機能であることを示しています。
- 本書では、EF28-105mm F3.5-4.5レンズを取り付けた状態で説明しています。
- カスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
- (♂4)/(♂6)はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ4秒間/6秒間保持されることを示しています。

1

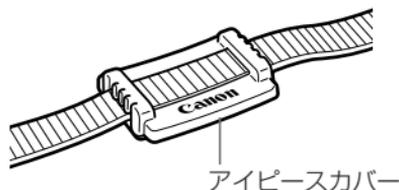
撮影前の準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。



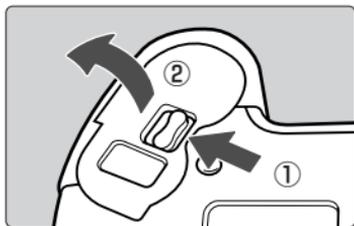
ストラップ(吊りひも)の取り付け方
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。引っぱっても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています。(34)



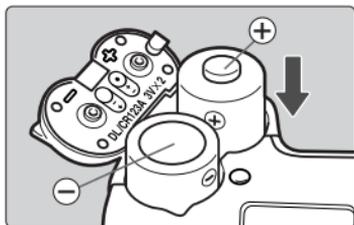
電池を入れる

電池はCR123A(DL123A)リチウム電池を2本使用します。



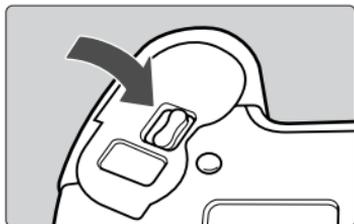
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。
- 古い電池と新しい電池をまぜて使わないでください。



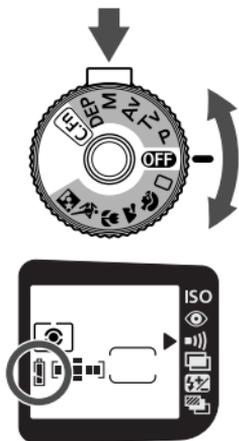
3 ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまでふたを押します。

 地域によっては電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池を用意してください。

電池容量を確認する

電池を交換したときや撮影の前などには、電池の容量を確認してください。



モードダイヤルを撮影モードにする

- ロック解除ボタンを押しながら回します。
- ➡ 電源が入り表示パネルにバッテリーチェックマークが表示されます。

 : 電池の容量は十分です。

 : 電池の残量が少なくなっています。新しい電池を用意してください。

 : もうすぐ電池切れになります。

 : 新しい電池と交換してください。

撮影可能フィルム本数(24枚撮りフィルム)

[本]

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温(+20℃)	115 (125)	33 (38)	17 (19)
低温(-20℃)	65 (70)	19 (20)	9 (10)

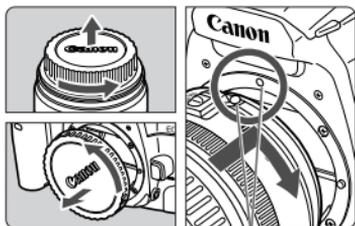
- 新品電池使用、当社試験基準による本数です。
- ()内は視線入力スイッチ<OFF>のときの本数です。



- 表示パネルに何も表示されないときは、電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れ直してください。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみを行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影可能フィルム本数が少なくなります。
- カメラを使用しないときは、不用意な作動をさけるため、モードダイヤルを<OFF>にしてください。

レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方



レンズ取り付け指標

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

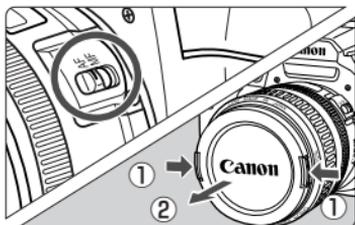
2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

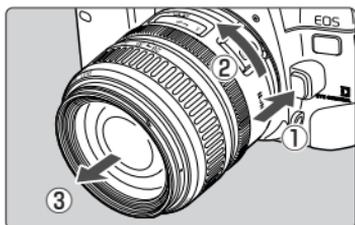
3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉になっていると、オートフォーカスできません。

4 レンズキャップを外す



取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

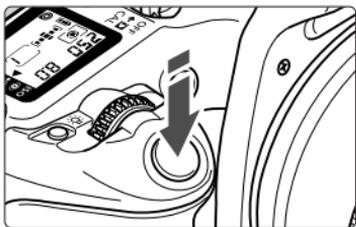
- 回転が止まるまで回してから、外します。



- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。
- 〈AF〉はAuto Focus(オートフォーカス)の略で自動ピント合わせ、〈MF〉はManual Focus(マニュアルフォーカス)の略で手動ピント合わせのことです。
- EF-Sレンズは取り付けられません。

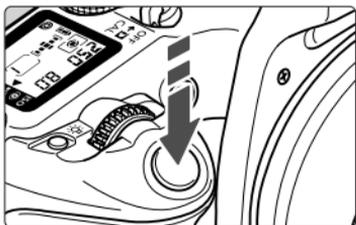
シャッターボタンとオートフォーカス

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。



半押し

- ➡ AF(オートフォーカス)によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
- ➡ 露出値(シャッター速度と絞り数値)が表示パネルとファインダー内に表示されます。(♻4)



全押し

- ➡ シャッターが切れて撮影が行われ、自動的にフィルムが巻き上げられます。

⚠ エクステンダー(別売)を併用したときの開放絞り数値がF5.6を超えるレンズでは、AF撮影できません。

- シャッターボタン半押し後のタイマー(♻4)が切れた状態から撮影するときは、シャッターボタン半押し後、一呼吸置いてから全押ししてください。シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬間を置いてから撮影されます。
- シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために次の点に注意してください。
 - ・カメラが動かないようにしっかり構えてください。
 - ・シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。
- AFモードダイヤルを<AI SERVO>にすると合焦マーク(●)は点灯しません。
- AFモードダイヤルを<AI SERVO>にして、AFフレームを自動選択(42)にすると、AFフレームは赤く光りません。

◎フィルムを入れる／取り出す

入れる

フィルムを入れると自動的に1コマ目までフィルムを巻き上げます。フィルム感度はDXコードにより自動設定されます。

1 モードダイヤルをく◎以外にする

- ロック解除ボタンを押しながら回します。

2 背ぶたを開ける

- レバーを下げて背ぶたを開けます。

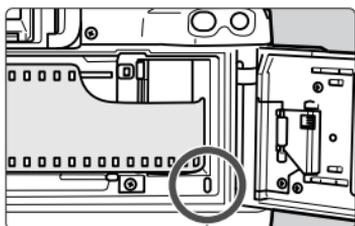
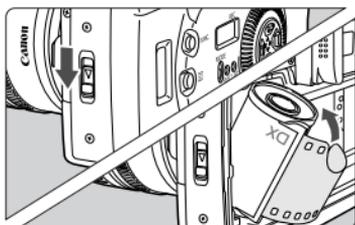
3 フィルムを少し斜めにして入れる

4 フィルムの先端をオレンジマーク(フィルム先端指標)に合わせる

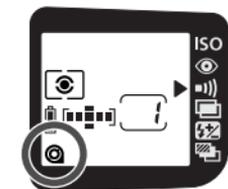
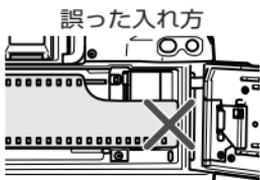
- パトローネ(フィルム容器)を押さえながらフィルムを引き出します。
- 引き出し過ぎたときは、パトローネ内に少し巻き戻します。

5 背ぶたを閉じる

- 「パチン」というまで閉じます。
- ➡自動的にフィルムを巻き上げます。
- ➡巻き上げ中は、表示パネルにISO感度が表示されます。
- ➡巻き上げが終わると、く◎とフィルムカウンターに「1」が表示されます。



オレンジマーク





- シャッター幕は非常に高い精度で加工されています。絶対に手を触れないでください。またフィルムを入れる際に、誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分にご注意ください。
- 高温・高湿環境下で撮影するときは、フィルムはカメラに入れる直前に梱包から取り出してください。
- 赤外フィルムは使用できません。

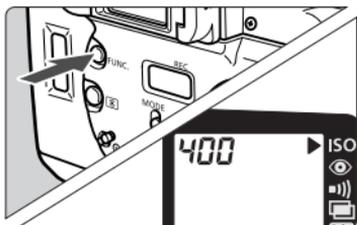


フィルムが正しく入っていないと、<ⓐ>が点滅してシャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。

フィルム感度の設定確認

フィルム感度は、カメラがフィルムのDXコードを読み取ることにより自動設定されます。自動設定される感度の範囲は、ISO25～5000です。

- モードダイヤルを応用撮影ゾーンにします。



◀▶マークを<ISO>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(ⓐ6)
- ➡設定されているフィルム感度が表示されます。



フィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定するときや、DXコードが付いていないフィルムを使用するときは、『フィルム感度の手動設定』(73)を参照してください。



DXコードによるフィルム感度の自動設定を禁止することができます。
(C.Fn-03-1 :85)

◎フィルムを入れる／取り出す

取り出す

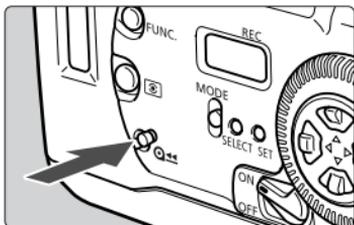
最後のコマを撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。



- ➡巻き戻しが始めると、表示パネルに巻き戻し中を示すフィルム給送表示が行われ、フィルムカウンターの数字も1ずつ減っていきます。
- ➡巻き戻しが終わると自動的に停止します。
- <◎>の点滅を確認し、背ぶたを開けてフィルムを取り出します。

◎◀途中巻き戻し

フィルムを撮り終える前に取り出すときは次のようにします。



<◎◀>ボタンを押す

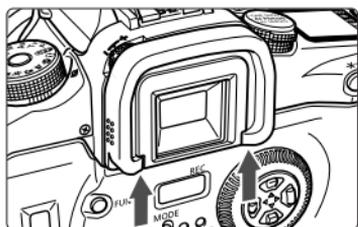
- ➡巻き戻しが始まります。
- ➡巻き戻しが終わると自動的に停止します。
- <◎>の点滅を確認し、背ぶたを開けてフィルムを取り出します。

 巻き戻し中に<◎◀>ボタンを押すと、高速巻き戻しと低速(静音)巻き戻しの切り換えができます。

- C.Fn**
- 巻き戻しを速くすることができます。(C.Fn-01-1 :85)
 - 巻き戻し完了時にフィルムの先端をパトローネに巻き込まないようにすることができます。(C.Fn-02-1 :85)

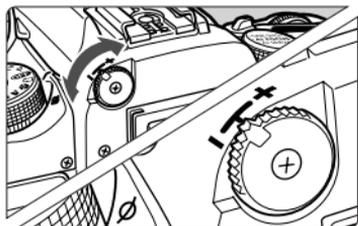
鮮明なファインダーに調整する

ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することによって、メガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は $-2.5\sim+0.5\text{dpt}$ の範囲で行うことができます。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側の両端を押し上げて取り外します。



2 視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームがもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準(-1dpt)の位置です。

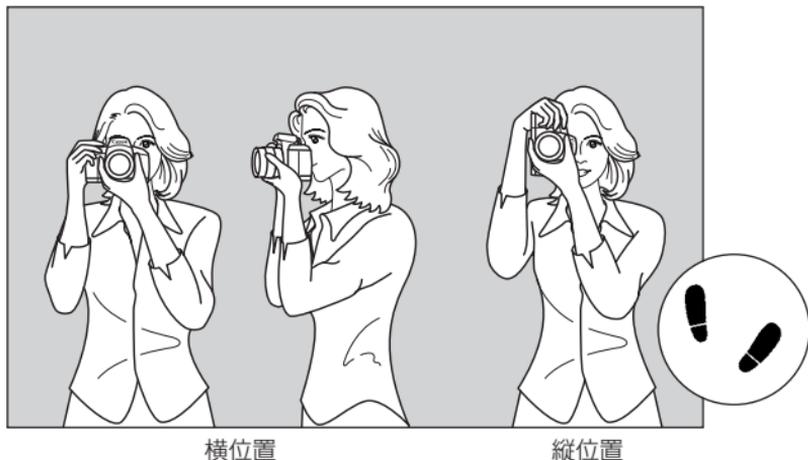
3 アイカップを取り付ける



視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、視度補正レンズEd (別売/10種)の使用をおすすめします。

カメラの構え方

鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。



- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体に付けます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

 このカメラには、カメラの姿勢を検知する機構が内蔵されています。そのため、カメラの構え方(横位置/縦位置)を変えると、小さな音がします。

2

カメラまかせの自動撮影

この章では、モードダイヤルの簡単撮影ゾーンにある〈□〉〈📷〉〈📷〉〈📷〉〈📷〉を使って簡単に撮影する方法を説明しています。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。また、誤操作による失敗を防ぐため、〈📷〉〈📷〉、AFモードダイヤル、巻き上げモードレバー(〈📷〉を除く)、および各種操作ボタン(〈FUNC.〉〈📷〉を除く)による操作・設定はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。



モードダイヤルを〈□〉〈📷〉〈📷〉〈📷〉〈📷〉のいずれかにする

- 撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(28)と同じです。
- 簡単撮影ゾーンで自動設定される機能の内容は、『撮影機能の組み合わせ一覧』(91)を参照してください。

□全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。7つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな写真が写せます。

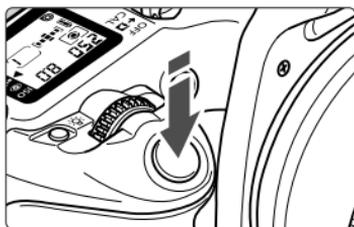


1 モードダイヤルを<□>にする



2 被写体にAFフレームを合わせる

- カメラが主被写体と判断したAFフレームでピントを合わせます。
- 7つのAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、『画面の端の被写体にピントを合わせる』(50)を参照してください。



3 ピントを合わせる

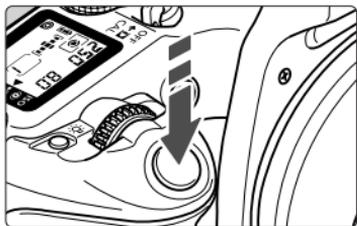
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➡必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。
- ➡ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク<●>が点灯します。



4 表示を確認する

- ➡シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。(64)





5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズームリングを動かすと、ピントがズレることがあります。
- 誤って内蔵ストロボが上がるのを阻害したときは、表示パネルの<⏏>が点滅して警告します。そのときは、シャッターボタンを半押しすると正常に戻ります。

- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出はロックされます。
- 合焦マーク<●>が点滅するときは、撮影できません。(51)
- 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
- 複数のAFフレームが同時に赤く光ることがあります。そのときは、赤く光ったすべての位置にピントが合っています。
- 簡単撮影ゾーン(<📷>×<📷>を除く)では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは手で押し下げます。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- <📷>×<📷>では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光によってピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、ストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

イメージにあわせて撮る

撮影目的に応じたモードを選ぶだけで、効果的な写真を簡単に撮影できます。

ポートレート



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

●シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。

●望遠レンズを使用して、人物の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。

➡AFモードは<ONE SHOT>、巻き上げモードは<□>、測光モードは<☉>に自動設定されます。

風景



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

●広角レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現できます。

➡AFモードは<ONE SHOT>、巻き上げモードは<□>、測光モードは<☉>に自動設定されます。

クローズアップ



草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。

●できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。

●ズームレンズ使用時は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影できます。

●本格的なクローズアップ撮影には、別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。

➡AFモードは<ONE SHOT>、巻き上げモードは<□>、測光モードは<☉>に自動設定されます。



スポーツ



動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- 始めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。その後、7つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、ピントを合わせ続けます。
 - シャッターボタンを押し続けると、被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。
 - 望遠レンズ、ISO400以上の高感度フィルムの使用をおすすめします。
 - ピントが合っても合焦マーク(●)は点灯しません。
- ⇒ AFモードは〈AI SERVO〉、巻き上げモードは〈〉、測光モードは〈〉に自動設定されます。



夜景ポートレート



夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影できます。

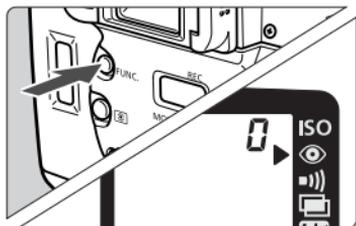
- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは、〈〉で撮影してください。
 - ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。
- ⇒ AFモードは〈ONE SHOT〉、巻き上げモードは〈〉、測光モードは〈〉に自動設定されます。



- シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ブレが起きやすくなります。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。
- 〈〉では、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。

👁️赤目緩和機能を使う (内蔵ストロボ使用時)

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といい、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人の瞳孔を小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は<📷><📷>以外のすべての撮影モードで機能します。



1 <▶>マークを<👁️>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(🔁6)

2 表示を「!」にする

- <📷>を回します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
- 解除するときには、表示を「0」にします。



- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。

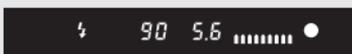
- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、ランプを見るように声をかけてください。

- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。

- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。

- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。

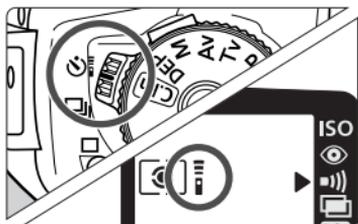
- 室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。



赤目緩和ランプ点灯表示

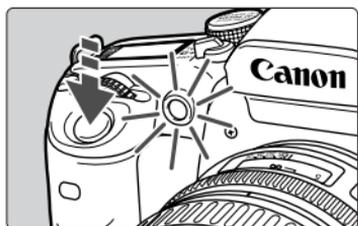
セルフタイマーを使って撮る

簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



1 巻き上げモードレバーをく(ⓘ)にする

→表示パネルにく(ⓘ)が表示されます。



2 撮影する

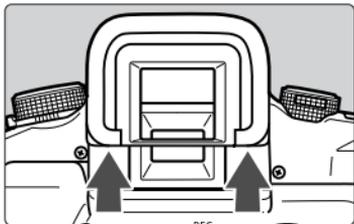
- 撮影の手順は『□全自動で撮る』(28)と同じです。
- ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
- 約10秒後に撮影されます。
最初の8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音／ランプ点滅
最後の2秒間：早くピピピピ音／ランプ点灯
- セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。

🚫 レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、狙った被写体にピントが合わなくなります。

- 📷 ●セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、巻き上げモードレバーをく(□) (1枚撮影) またはく(📷) にします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック(50)してから撮影します。
- 電子音を鳴らないようにすることができます。(74)

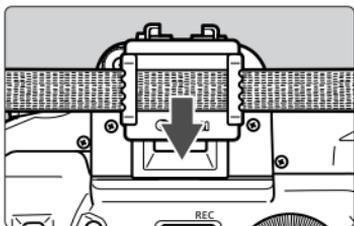
アイピースカバーを使う

セルフタイマーやワイヤレスリモコン(別売)を使うときなど、ファインダーから目を離して撮影すると、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのときは、アイピースカバー(17)を使います。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側の両端を押し上げて取り外します。



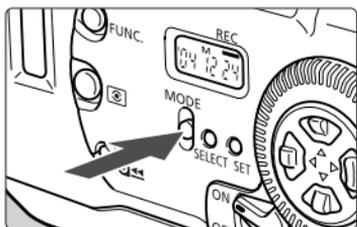
2 アイピースカバーを取り付ける

- アイピースカバーはストラップのベルト部分に付いています。
- ファインダー接眼部の溝に沿って取り付けます。

日付／時刻を入れて撮る



このカメラには2019年までのオートカレンダーが組み込まれたデート機能がついています。撮影と同時に日付や時刻を、左に示す写真の位置に写し込むことができます。日付／時刻は、簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも写し込むことができます。



〈MODE〉ボタンを押す

➡ デート表示パネルの表示が次のように変わります。

〈年月日〉表示	04 M 12 24	(2004年12月24日)
↓		
〈日時分〉表示	24 16:45	(24日16時45分)
↓		
〈ハイフン〉表示	- - - -	(何も写し込まない)
↓		
〈月日年〉表示	M 12 24 04	(12月24日2004年)
↓		
〈日月年〉表示	24 M 12 04	(24日12月2004年)

- 〈M〉は「月」を表します。
- 撮影すると、〈—〉が点滅して写し込みが行われたことを表示します。

日付／時刻を入れて撮る

設定する



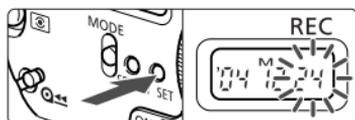
1 日付／時刻を選ぶ

- 〈MODE〉ボタンを押します。



2 修正する数字を点滅させる

- 〈SELECT〉ボタンを押します。
→設定位置は年→月→日、または時→分→「:」の順に変わります。



3 正しい数字を設定する

- 〈SET〉ボタンを押します。
●手順2、3を繰り返し、すべての日付／時刻を設定します。

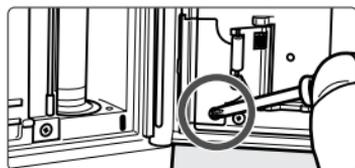


4 設定を終了する

- 点滅している数字がなくなるまで〈SELECT〉ボタンを押します。
●「:」点滅で〈SELECT〉ボタンを押したときがゼロ秒になります。

デート用電池の交換

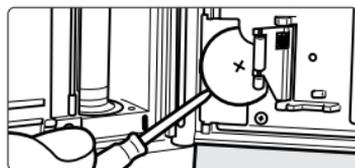
写真に写し込まれた日付／時刻がうすくなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。電池はCR2025リチウム電池を1個使用します。



1 ふたを取り外す

- 背ぶたを開け、図に示すねじをゆるめます。

2 電池を取り出す



3 新しい電池を入れる

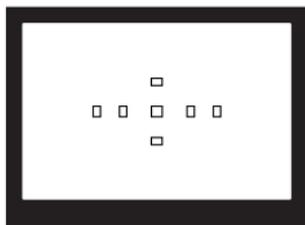
- 電池の「+」側を上にして入れます。

4 電池室ふたを取り付ける

- 日付／時刻を設定します。

3

オートフォーカス(AF)と 測光方式



ファインダー内には、7つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図にあわせてオートフォーカスの作動特性を選択できます。

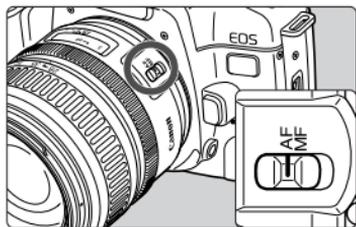


測光モードには、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光があります。撮影状況や撮影意図にあわせて選択してください。

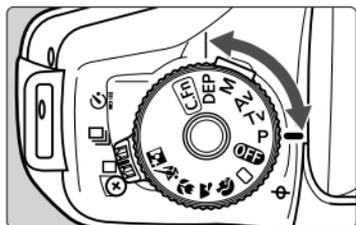
- ★マークは、応用撮影ゾーン(P、Tv、Av、M、DEP)限定の機能であることを示しています。

AFモードの選択★

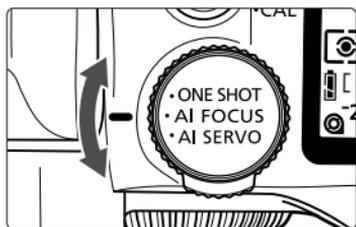
AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。①止まっている被写体の撮影に適している「ワンショットAF」、②動いている被写体の撮影に適している「AIサーボAF」、③被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換える「AIフォーカスAF」の3種類があります。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする



3 AFモードを選ぶ

● AFモードダイヤルを回します。

ONE SHOT : ワンショットAF

AI FOCUS : AIフォーカスAF

AI SERVO : AIサーボAF

止まっている被写体を撮るときはワンショットAF



AFフレーム
合焦マーク



シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせます

- ➡ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬赤く光ります。同時にファインダー内に合焦マークが表示されます。
- ➡ 評価測光ではピントが合うと、同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと、露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影(50)ができます。



ピントが合わないと、ファインダー内の合焦マーク(●)が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えてもう一度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)』(51)を参照してください。

動いている被写体を撮るときはAIサーボAF



シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます

- 撮影距離がたえず変わる(移動している)被写体の撮影に適しています。
- ➡ 動体予測機能*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。
- ➡ 露出は撮影の瞬間に決まります。

AFモードの選択*



- ピントが合ってもファインダー内の合焦マーク(●)は点灯せず、電子音も鳴りません。
- ファインダー内の合焦マーク(●)が点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影はできません。

*動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる、または遠ざかっていくときに、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

- AFフレーム自動選択のときは、始めに中央AFフレームで被写体をとらえます。AF中に被写体が中央AFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。このときAFフレームは赤く光りません。
- AFフレームを任意に選択しているときは、選択したAFフレームで動体予測を行います。
- 視線入力AFのときは、視線サーボAF(49)になり、移動する被写体がAFフレームに重なっていれば、被写体を視線(目)で追うだけで動体予測機能によりピントを合わせ続けることができます。



AIサーボAF作動中に<★・C.Fn>ボタンを押すと、押している間AFの作動を一時停止することができます。(C.Fn-04-2 :85)

AFモードを自動的に切り換えるAIフォーカスAF



AIフォーカスAFは、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AFフレームの選択★

AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択方式には、自動選択と任意選択があります。簡単撮影ゾーンでは自動選択になります。〈P〉×Tv×Av×Mの撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

●自動選択

撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピントを合わせます。

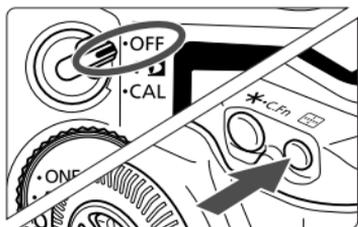
●任意選択

7つのAFフレームから、任意の1点を手で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたいときや、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたいときに便利な機能です。

●視線入力による任意選択 (43~49)

7つのAFフレームから、任意の1点を視線(目)で選択します。

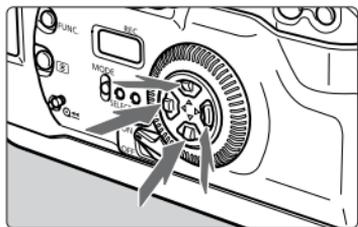
AFフレーム選択の基本操作



1 視線入力スイッチを〈OFF〉にする

2 〈〉ボタンを押す(※6)

→現在選択されているAFフレームが、表示パネルとファインダー内に表示されます。



3 AFフレームを選択する

●ファインダー内または表示パネルを見ながら、〈〉を押します。

→〈〉の左/右を押すと横方向に、上/下を押すと縦方向に移動します。

●シャッターボタン半押し、またはもう一度〈〉ボタンを押すと撮影準備状態に戻ります。

EOS専用外部ストロボ使用時にAF補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

AFフレームの選択*

自動選択

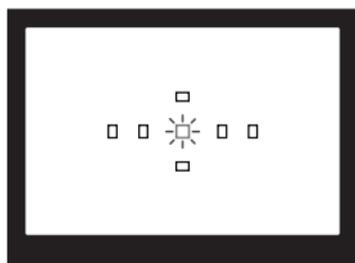


すべてのAFフレームを赤く表示させる

- 一番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。

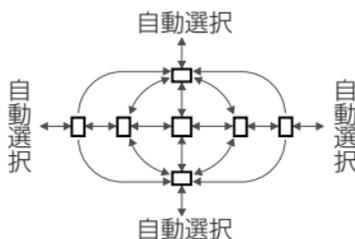


任意選択



希望する1点のAFフレームを赤く表示させる

- <⊕>によるAFフレームの動き方は左図を参照してください。
- <⊞>ボタンを押して、自動選択から任意選択にすると、中央のAFフレームから選択開始になります。



中央AFフレーム選択例

C.Fn

- 合焦時にAFフレームが赤く光らないようにすることができます。(C.Fn-10-1 :87)
- <⊞>ボタンを押さずに、<⊕>で直接AFフレームの選択ができます。(C.Fn-11-1 :87)
- <⊕>の代わりに<⊞>×<⊞>でAFフレームの選択ができます。(C.Fn-11-2 :87)
- <⊞>ボタンで瞬時に中央のAFフレームへ切り換えることができます。(C.Fn-12-1 :88)

CAL 視線入力AFの準備

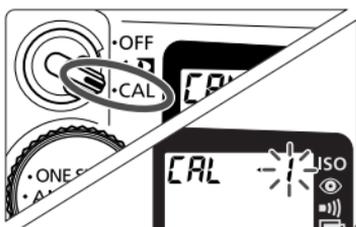
視線入力による任意選択(視線入力AF)は、ファインダー内の7つのAFフレームのうち、視線(目)がどのAFフレームを見ているかをカメラが瞬時に判断して、そこにある被写体にピントを合わせる機能です。

自分の目の視線特性を登録する(キャリブレーション)

視線入力AFを使用するには、ファインダー内を見ている視線の動きをカメラが正確に検知できるようにするため、自分の視線特性をあらかじめカメラに登録する必要があります。登録は点滅するAFフレームを注視しながら、シャッターボタンを押します。同じ番号にカメラ横位置と縦位置の視線特性を登録してください。なお、このカメラは5件の視線特性を登録できます。

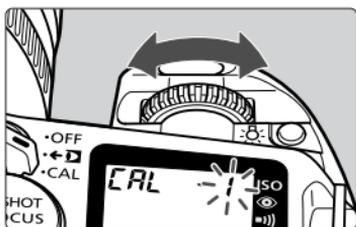
- 視線入力AF撮影時の視線検出精度を高めるため、『キャリブレーション・視線入力AFのコツ』(46)をお読みください。
- あらかじめ視度調整(25)を行ってください。
- ファインダーから目を離さずに操作を行ってください。

* CALは、Calibration(キャリブレーション)の略で調整のことです。



1 視線入力スイッチを<CAL>にする

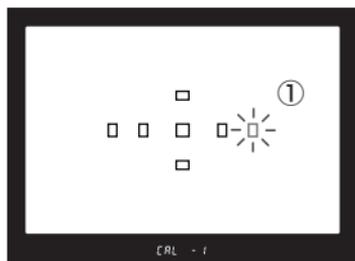
- ➔ 表示パネルに「CAL」と登録番号が表示されます。
番号点滅：未登録の番号
番号点灯：登録されている番号



2 点滅している登録番号を選ぶ

- <🔧>を回します。
- 点滅している番号がないときは、『登録した視線特性の削除』(47)を参照してください。

3 横に構えてファインダーをのぞく



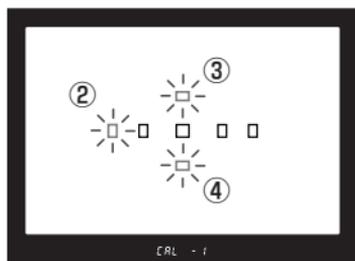
4 点滅しているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押す

- はじめに右の点滅しているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押します。
- ➔AFフレームが点灯に変わり、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- 登録中はシャッターボタンを全押ししても撮影されません。

5 シャッターボタンから指を離す

6 手順4、5の操作を繰り返す

- ➔②→③→④の順に点滅します。



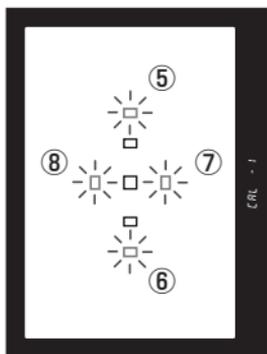
7 表示を確認する

- ➔登録が完了すると、点滅していた番号が点灯に変わり、「End」と表示されます。

8 縦に構えてファインダーをのぞく

- 同じ番号に縦位置の登録を行います。
- 構え方はグリッが上でも下でも構いません。





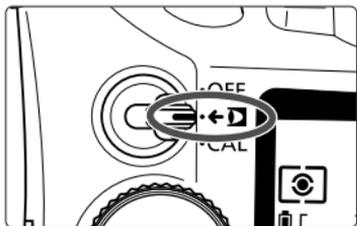
End - 1

9 点滅しているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押す

- 手順4～6と同様の操作を行います。
- ➔ ⑤→⑥→⑦→⑧の順にAFフレームが点滅します。

10 表示を確認する

- ➔ 登録が完了すると、点滅していた番号が点灯に変わり、「End」と表示されます。



11 視線入力スイッチを<←□>にする

- 視線特性の登録が終了し、視線入力AF撮影(48)ができます。

❗ 電子音が「ピピピピピ…」と断続して鳴り、「CRL」と番号が点滅するときは、カメラが視線を検出できなかったことを示します。もう一度シャッターボタンを押して、手順3からやり直してください。

- 横位置のみの登録では、縦位置での視線入力AF撮影時に十分な視線検出ができないことがありますので、縦位置でも登録を行ってください。
- 登録操作を中断している間に、ファインダー内で点滅しているAFフレームが消えたら、手順3からやり直してください。
- キャリブレーションがうまくできないときは、『キャリブレーション・視線入力AFのコツ』(46)を参照してください。
- 電子音の設定(74)が「0」になっているときは、電子音は鳴りません。

キャリブレーション・視線入力AFのコツ

- いつでもファインダーののぞき方が変わらないように構える。
- ファインダー内の四隅が均等に見えるようにのぞく。
- 目を細めたり、できるだけまばたきをしない。
- キャリブレーションをするときと、視線入力AFで撮影するときは、同じのぞき方で行う。
- キャリブレーション中は、点滅しているAFフレームが点灯に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴るまで目を動かさず注視する。
- 両目を開けてファインダーをのぞいてみる。
- メガネ使用時は、正しくメガネをかける(鼻メガネの状態でのぞかない)。

次の場合、キャリブレーション・視線入力AFができないことがあります。

- 遠近両用メガネ、ハードコンタクトレンズ使用時
- ミラーレンズサングラスなど、特殊なコーティングが施されているメガネ使用時
- メガネなどにより、ファインダーから著しく目の位置が遠い場合
- ファインダーから著しく目の位置が近い場合

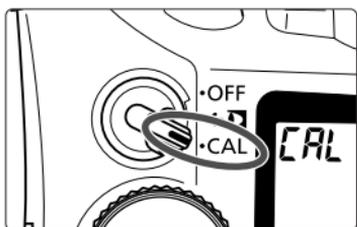
視線特性の学習機能

このカメラには、視線特性データを蓄積する機能があります。同じ番号に撮影条件(屋外、室内、昼、夜など)が変わるたびに繰り返し登録すると、より多くのデータを学習し、視線検出精度が向上します。

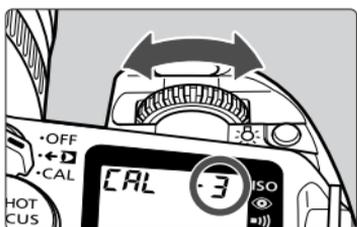
 同じ番号に別の人の視線特性を登録しないでください。別の人が使うときは番号を変えるか、その番号の登録内容を消去(47)してから登録します。

登録した視線特性の消去

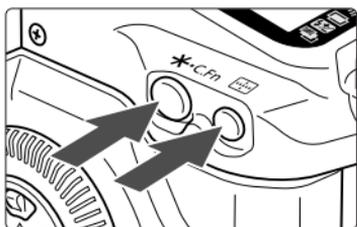
同じ番号に異なる視線の状態(例えば裸眼とメガネ使用)を登録したり、別の人の視線特性を登録すると、正確な視線検出ができなくなります。そのときは、その番号の登録内容を消去して登録し直します。



1 視線入力スイッチを<CAL>にする



2 消去する番号を選ぶ
●点灯している番号を選びます。



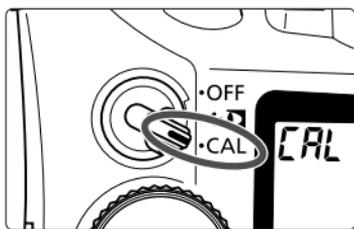
3 <*C.Fn>ボタンと<INFO>ボタンを同時に押す
→番号が点滅し、消去されたことを示します。



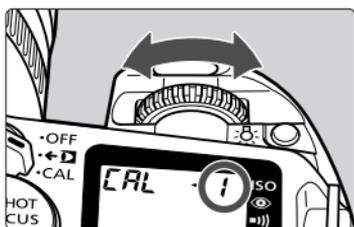
←視線入力AFで撮る

視線入力AFは、ファインダー内の任意のAFフレームを注視するだけで、その位置にピントを合わせることができます。

- (全自動)を除く、全ての撮影モードで視線入力AF撮影ができます。
- (全自動)のときは、視線入力情報がAFフレーム自動選択プログラムに加味され、より高度な自動選択AFになります。

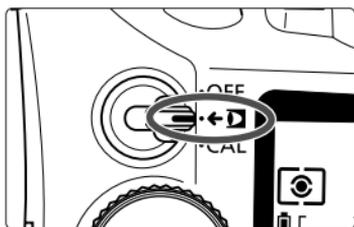


1 視線入力スイッチを<CAL>にする



2 番号を選ぶ

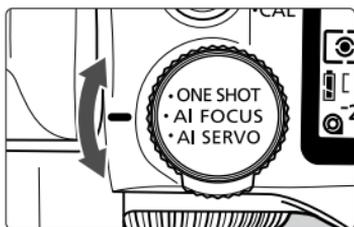
- を回して、自分で登録した番号を選びます。
番号点灯：登録されている番号
番号点滅：未登録の番号



3 視線入力スイッチを<←>にする

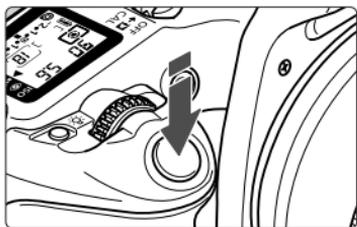
4 撮影モードを選ぶ

- モードダイヤルを回します。



5 AFモードを選ぶ

- AFモードダイヤルを回します。



6 ピントを合わせたいAFフレームを注視しながらシャッターボタンを半押しする

- ➔ ファインダー内に「**AF**」が点灯します。
- ➔ 注視したAFフレームが一瞬赤く光り、その位置でピント合わせが行われます。

7 撮影する

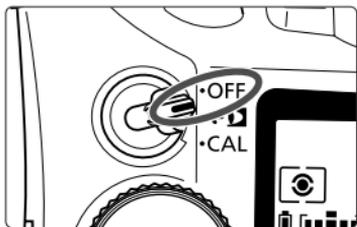


- 「**AF**」(全自動)以外の撮影モードで、カメラが視線を検出できなかったときは、ファインダー内の「**AF**」が点滅し、自動選択でピント合わせが行われます。
- 視線入力AFでうまくピントが合わないときは、もう一度登録番号を確認し、『キャリアレーション・視線入力AFのコツ』(46)を参照してください。

視線サーボAF

視線入力AFとAIサーボAF(またはAIフォーカスAFのAIサーボAF時)を併用すると、移動する被写体を視線で追うだけで連続してピントを合わせ続けることができます。これを視線サーボAFといいます。視線入力AFでとらえた被写体が移動を始めたときは、シャッターボタンを半押ししたまま、被写体の移動先に重なっている別のAFフレームを見る(目で追う)だけで、連続してピントを合わせ続けます。

視線入力AFの解除



視線入力スイッチを「**OFF**」にします。AFフレームの自動選択または任意選択での撮影になります。

画面の端の被写体にピントを合わせる

AFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法をフォーカスロック撮影といいます。フォーカスロック撮影は、AFモードがワンショットAFに設定されているときに有効です。

1 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

2 任意のAFフレームを選択する

3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



4 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える



5 撮影する

 簡単撮影ゾーンでもフォーカスロック撮影ができます(⌘を除く)。そのときは手順3から行います。

AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)

次のような特殊な被写体に対しては、ピント合わせができない(合焦マーク<●>が点滅する)ことがあります。

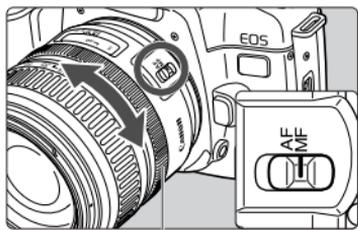
ピントが合いにくい被写体

- コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体
例：青空、単色の平面
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体
例：反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
例：おりの中の動物

これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

- (1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
- (2) レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>にして手動でピントを合わせる。

MF手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)



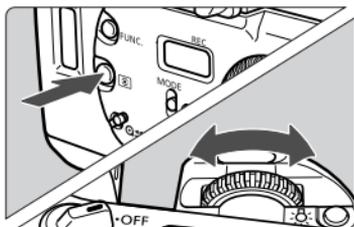
フォーカスリング

- 1 レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>にする
- 2 ピントを合わせる
 - ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ピントが合ったAFフレームが一瞬赤く光り、合焦マーク<●>が点灯します。

☑ 測光モードの選択★

測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。簡単撮影ゾーンでは評価測光に自動設定されますが、応用撮影ゾーンでは測光モードを選ぶことができます。



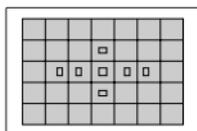
1 <☑>ボタンを押す(ⓐ)

2 測光モードを選ぶ

- <☑>を回します。



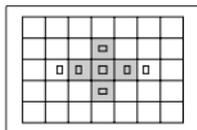
- シャッターボタン半押し、またはもう一度<☑>ボタンを押すと撮影準備状態に戻ります。



☑ 評価測光

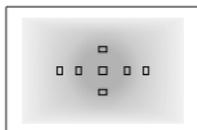
このカメラの標準測光方式で、逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。

- 手動ピント合わせ時は、常に中央AFフレーム基準の評価測光になります。
- 主被写体が極端な逆光下にあったり、強いスポットライトを浴びているような、主被写体と背景に極端な明暗差があるときは、部分測光<☒>をおすすめします。



☒ 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約10%の範囲を測光します。測光範囲はほぼ左図の範囲となります。



☐ 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

C.Fn AFフレームに連動した部分測光、FEロックができます。(C.Fn-08-1 :87)

4

撮影目的にあわせた 応用撮影



応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ★マークは、応用撮影ゾーン（P、Tv、Av、M、DEP）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間(♻4)表示されます。
- 応用撮影ゾーンで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』(91)を参照してください。
- あらかじめ(☑)スイッチを<ON>にしてください。

P プログラムAE撮影



◁P>(全自動)と同じように気軽に撮影できます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

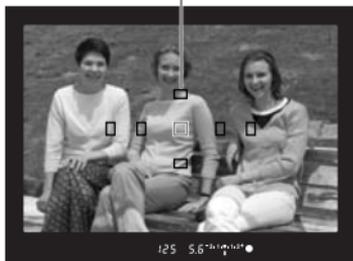
- * <P>は、Program(プログラム)の略です。
- * AEは、Auto Exposure(オートエクスポージャー)の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを<P>にする

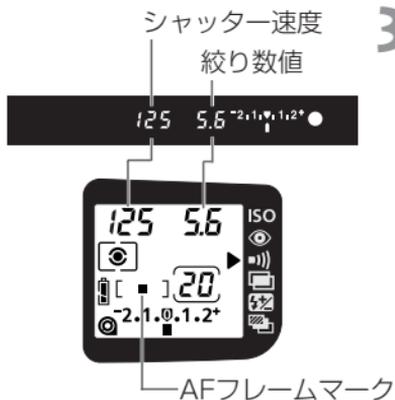
2 ピントを合わせる

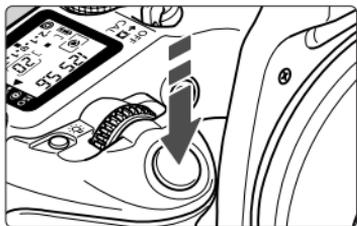
- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



3 表示を確認する

- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。





4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



- シャッター速度の「30''」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ストロボを使用してください。



- シャッター速度の「4000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。減光用のNDフィルター(別売)を使用してください。



〈P〉と〈O〉(全自動)の違い

- 自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせはともに同じです。
- 〈P〉では次の機能の選択・設定または使用が可能です。〈O〉ではできません。

● AFフレームの任意選択	● カスタム機能
● 測光モードの選択	● 内蔵ストロボの手動発光
● 巻き上げモードの選択	● EXスピードライト使用時
● プログラムシフト	・ FEロック
● 露出補正	・ ハイスピードシンクロ(FP発光)
● AEB	・ FEB
● 〈*〉ボタンによるAEロック	・ 後幕シンクロ
● 被写界深度確認	・ 光量比制御
● 多重露出	・ モデリング発光

プログラムシフトについて

- プログラムAEは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を、同じ露出のまま自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで(☺)を回します。
- プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現できます。

* <Tv>は、Time value(タイムバリュー)の略で時間量のことです。



速いシャッター速度



遅いシャッター速度



1 モードダイヤルを<Tv>にする

2 シャッター速度を設定する

- <露出アイコン>を回します。
- 1/2段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

1000 3.5 2.1 0 1.2



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー(露出不足)です。絞り数値の点滅が止まるまで $\langle \text{☀} \rangle$ を回してシャッター速度を遅くします。
- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー(露出過度)です。絞り数値の点滅が止まるまで $\langle \text{☀} \rangle$ を回してシャッター速度を速くします。



シャッター速度の表示

「4000」から「2」までは分数の分母を表しています。例えば、「125」は1/125秒を表しています。また、「0''7」は0.7秒を、「15''」は15秒を表しています。

4000	3000	2000	1500	1000	750	500	350	250	180
125	90	60	45	30	20	15	10	8	6
4	3	2	0''7						
1''	1''5	2''	3''	4''	6''	8''	10''	15''	20''
								30''	

Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を小さくする(絞りを開く)と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする(絞りを閉じる)と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。

* <Av>は、Aperture value(アパチャーバリュー)の略で開口量のことです。



小さい絞り数値



大きい絞り数値



1 モードダイヤルを<Av>にする



2 絞り数値を設定する

- <絞り>を回します。
- 1/2段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



- シャッター速度の「30」が点滅するときは、露出アンダー(露出不足)です。点滅が止まるまで $\langle \text{露出補正ダイヤル} \rangle$ を回して絞り数値を小さくします。
- シャッター速度の「4000」が点滅するときは、露出オーバー(露出過度)です。点滅が止まるまで $\langle \text{露出補正ダイヤル} \rangle$ を回して絞り数値を大きくします。

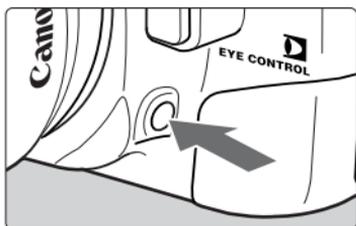


絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

1.0	1.2	1.4	1.8	2.0	2.5	2.8	3.5	4.0	4.5	5.6	6.7	8.0	9.5
11	13	16	19	22	27	32	38	45	54	64	76	91	

被写界深度を確認する★



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、被写界深度(ピントの合っている範囲)をファインダーで確認できます。



- 応用撮影ゾーンで機能します。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された(AEロック)状態になりません。

M 自分で露出を決めて撮る

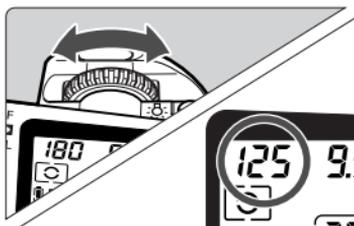


カメラまかせではなく、自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

* <M>は、Manual(マニュアル)の略です。

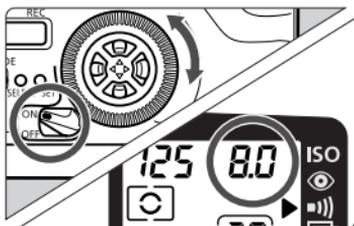


1 モードダイヤルを<M>にする



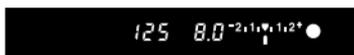
2 シャッター速度を設定する

- <1/25>を回します。



3 絞り数値を設定する

- <ON>スイッチを<ON>にして、<8.0>を回します。



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ 露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク<1.2>で、標準露出からどのくらいずれているか確認できます。

5 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

標準露出指標



： 露出を決めるときの基準です。



： 標準露出にするには、シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。



： 標準露出にするには、シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

露出レベルマーク

6 撮影する



露出レベルマーク(↑)が<2+>または<-2>の位置で点滅しているときは、露出が±2段を超えていることを示しています。

DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり、風景写真を撮るときなどに、鮮明に写したい範囲を指定することができます。近くから遠くまでを鮮明に写すために最適なピント位置と絞り数値、それに応じたシャッター速度をカメラが自動的に設定します。これを深度優先AEといいます。DEPには、任意選択したAFフレームで行う方法と、視線入力AFで行う方法があります。

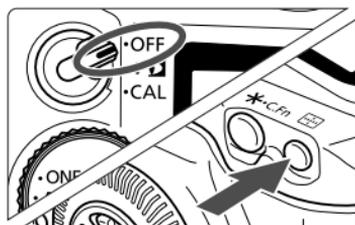
● レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっていると、〈DEP〉撮影できません。スイッチを〈AF〉にしてください。

* 〈DEP〉は、Depth of field(デプスオブフィールド)の略で被写界深度のことです。

選択したAFフレームによる方法



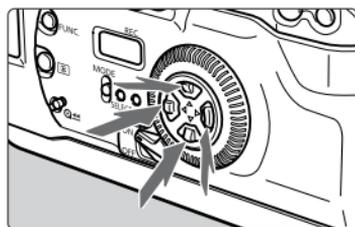
- 1 モードダイヤルを〈DEP〉にする
→ AFモードが〈ONE SHOT〉に自動設定されます。

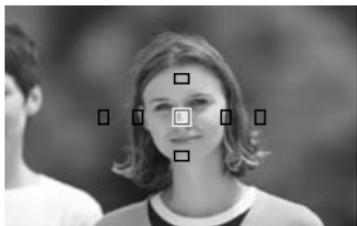


- 2 視線入力スイッチを〈OFF〉にする

- 3 AFフレームを選択する

- 〈Fn〉ボタンを押して、〈Fn〉で選びます。
- 自動選択のときは、中央のAFフレームでのピント合わせになります。





4 被写体の1点目にピントを合わせる

- 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを押します。(あ4)
- ➔ 合焦マーク(●)が点灯し、「dEP 1」と表示されます。
- 手順4、5ではシャッターボタンを全押ししても撮影されません。



5 被写体の2点目にピントを合わせる

- 手順4と同じ操作を行います。
- ➔ 「dEP 2」と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



6 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ➔ 1点目と2点目を鮮明に写すために最適なピント位置と絞り数値、それに合わせたシャッター速度が自動設定されます。
- シャッターボタンから指を離すと、表示は「dEP」に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

7 撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ、希望どおりの効果が得られます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

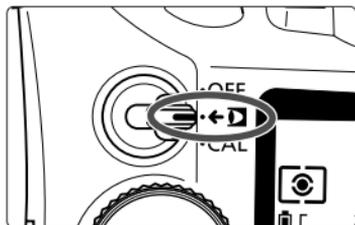
DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

視線入力AFによる方法

視線入力AFを利用すると、構図を大きく変えることなく、より簡単に〈DEP〉撮影ができます。

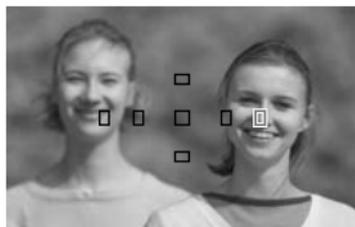


1 モードダイヤルを〈DEP〉にする



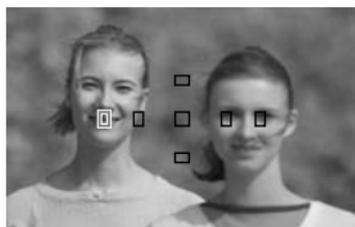
2 視線入力スイッチを〈←□〉にする

- 自分で登録した視線入力番号が選択されていることを確認します。(48)



3 被写体の1点目にピントを合わせる

- 被写体を注視しながら、シャッターボタンを押します。(44)
- ➡合焦マーク〈●〉が点灯し、「dEP 1」と表示されます。
- 手順3、4ではシャッターボタンを全押ししても撮影されません。



4 被写体の2点目にピントを合わせる

- 手順3と同じ操作を行います。
- ➡「dEP 2」と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



5 シャッターボタンを半押しする

- 露出を合わせたい被写体（AFフレーム）を注視しながら半押しします。
- ➔ 1点目と2点目を鮮明に写すために最適なピント位置と絞り数値、それに応じたシャッター速度が自動設定されます。
- シャッターボタンから指を離すと、表示は「dEP」に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。



6 撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ、希望どおりの効果が得られます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



- 絞り数値が点滅するときは、必要な被写界深度（絞り数値）が得られません。被写体から離れるか、ズームレンズを使用しているときは広角側にして、もう一度操作してください。
- シャッター速度の「30''」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。〈DEP〉撮影できません。
- シャッター速度の「4000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

- ズームレンズを使用しているときは、撮影が終わるまでズーム操作をしないでください。
- 遅いシャッター速度が設定されることがありますので、手ブレを防ぐために三脚の使用をおすすめします。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっていると、〈DEP〉撮影できません。〈P〉の撮影と同じ結果になります。
- ストロボ、リモコンを使用したときは、〈DEP〉撮影できません。〈P〉のストロボ撮影と同じ結果になります。
- 撮影距離範囲の切り換えができるレンズを使用して〈DEP〉撮影するときは、レンズの切り換えスイッチを「最短撮影距離～∞」に設定してください。

- 〈DEP〉撮影を途中で解除するときは、モードダイヤルを〈DEP〉以外にします。
- 被写界深度を確認するときは、被写体の2点目にピントを合わせ、3回目のシャッターボタンを半押ししたあと、絞り込みボタンを押します。
- 被写界深度を深くしたいときは、広角レンズの使用をおすすめします。
- 1点目と2点目のピント合わせを被写体の同じ部分で行うと、ピントが合う範囲は浅くなります。人物撮影などでこの方法を応用すると、人物の前景と背景をぼかした写真を撮ることができます。望遠レンズを使用するといっそう効果的です。

自分の好みに露出を補正する★

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ(プラス補正)にしたり、暗め(マイナス補正)にして撮影できます。設定できる補正量は、1/2段ステップで±2段の範囲です。

1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする

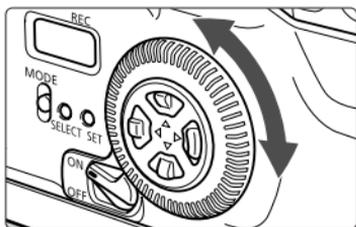
2 露出レベル表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、表示を確認します。



3 補正量を設定する

- 〈〉スイッチを〈ON〉にして、〈〉を回します。
- 露出補正を解除するときには、補正量を〈〉の位置に戻します。



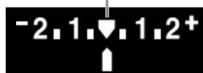
プラス補正



マイナス補正



標準露出指標



マイナス補正 ◀ ▶ プラス補正

露出レベルマーク

4 撮影する



- 設定した補正量は、モードダイヤルを〈OFF〉にしても記憶されています。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値8.0が適正露出のとき、露出レベル表示で1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

	-1段 ← 0 → +1段
シャッター速度なら	250 ← 125 → 60
絞り数値なら	11 ← 8.0 → 5.6

露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影★

1/2段ステップ±2段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影できます。これをAEB(Auto Exposure Bracketing : オートエクスポージャーブラケティング)撮影といいます。



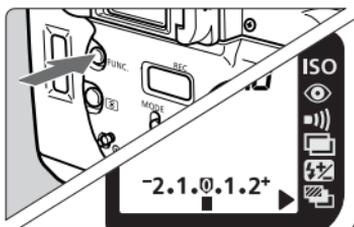
標準露出(0)



マイナス補正(-1/2)



プラス補正(+1/2)



AEBステップ量

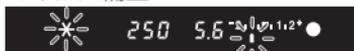


AEBレベル

標準露出



マイナス補正



プラス補正



1 <▶>マークをに合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(06)

2 AEBステップ量を設定する

- を回します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

3 撮影する

- ➡標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- ➡左図のように、撮影順に補正位置が表示されます。
- ➡設定されている巻き上げモードに従って撮影されます。

AEB撮影の解除



- 3コマ撮影後でも、AEBの設定は自動解除されません。解除するときは手順1、2の操作でAEBステップ量を「0.0」にします。
- ストロボ充電完了でも自動解除されません。

❗ ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

- AEB撮影中は、横のマークとAEBレベル、ファインダー内のが点滅します。
- 巻き上げモードがのときは、3コマ撮影後に自動停止します。 (1枚撮影)のときは、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- セルフタイマー／リモコンを併用したときは、自動的に3コマ連続撮影されます。
- カスタム機能C.Fn-05-1 (ミラーアップ撮影)を設定してAEB撮影すると、巻き上げモードを連続撮影にしても1枚撮影になります。
- AEBと露出補正を組み合わせると撮影できます。そのとき、露出レベル表示の表示範囲を超える露出補正をすると、表示は次のようになりますが、補正は設定どおりに行われます。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈DEP〉の場合

AEB±1段

露出補正-1段、AEB±1段

露出補正-1.5段、AEB±1段

露出補正-2段、AEB±1段

〈M〉の場合

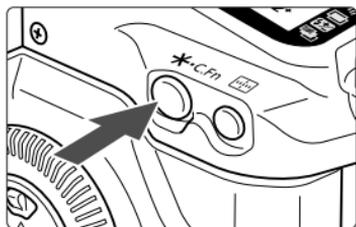
AEB±1段、中心の露出が標準露出に対して-2段

AEB±1段、中心の露出が標準露出に対して-2段を超えるとき



★露出を固定して撮る／AEロック撮影★

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影に利用します。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。



1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出値が表示されます。

2 <★>ボタンを押す(あ4)

- ファインダー内に<★>が表示され、露出が固定(AEロック)されます。
- <★>ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。



AEロック表示

3 構図を決めて撮影する

- 連続してAEロック撮影をするときは、<★>ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。



- ワンショットAF、AIフォーカスAF(AIサーボAF時を除く)のときは、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時にAEロックされます。
- AFフレームの選択と測光方式の組み合わせにより、AEロックの効果は変わります。詳しくは『AEロックの効果』(92)を参照してください。

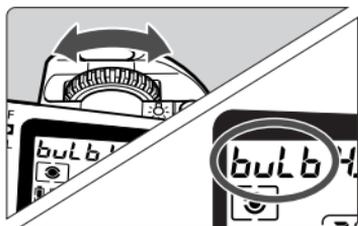
C.Fn シャッターボタン半押しでAEロックを行い、<★>ボタンでピントを合わせることができます。(C.Fn-04-1 :85)

長時間露光(バルブ)撮影★

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに使用します。

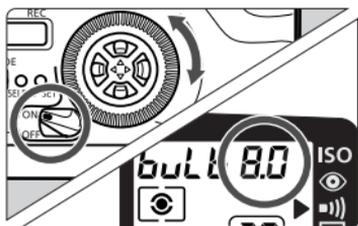


1 モードダイヤルを<M>にする



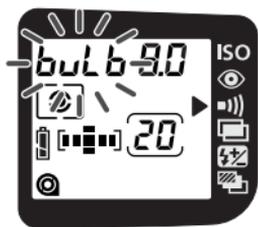
2 シャッター速度を「bulb」にする

- 表示パネルを見ながら、<🔧>を回して「bulb」を選びます。
- 「30''」の次が「bulb」です。



3 絞り数値を設定する

- <📷>スイッチを<ON>にして、<🔍>を回します。



4 撮影する

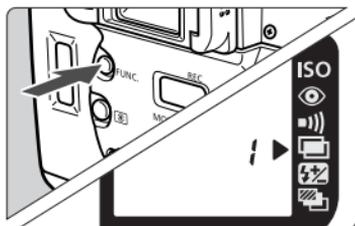
- ➔ 撮影中は表示パネルに「bulb」が点滅します。
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。



- バルブ撮影にはリモートスイッチRS-60E3(別売)の使用をおすすめします。
- リモートコントローラーRC-1/RC-5(別売)でもバルブ撮影ができます。送信ボタンを押すと露光が行われ、もう一度押すと撮影が終了します。
- 新品電池使用時、約10時間(常温)のバルブ撮影ができます。

多重露出撮影★

撮影後フィルムを巻き上げず、同じコマに複数回露光することを多重露出撮影といいます。1度の操作で9回までの多重露出回数を設定できます。



1 <▶>マークを<⊠>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(06)
- 「!」が表示されます



2 多重露出回数を設定する

- <⚙>を回します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

3 撮影する

- 設定した回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出撮影は自動的に解除されます。

多重露出撮影をフィルムの最初と最後の数コマで行うと、フィルムの巻きぐせにより写真の重なり具合が微妙にずれることがあります。



- 多重露出撮影中は<⊠>横の<▶>マークが点滅します。
- 撮影前に解除するときは、多重露出回数を「!」にします。
- 撮影の途中で解除するときは、手順1、2の操作で多重露出回数の表示を空白にします。
- 多重露出撮影では同じコマに何度も露光するため、露出値をあらかじめマイナス側に補正しておく必要があります。

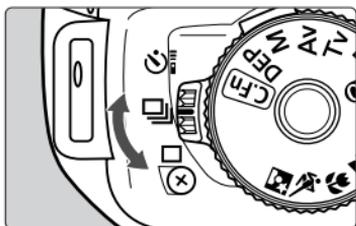
露出補正量のおおよその目安

この補正量は一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わります。

多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安	-1.0	-1.5	-2.0

📷 巻き上げモードの選択★

フィルム巻き上げには、1枚撮影<📷>と連続撮影<📷>があります。



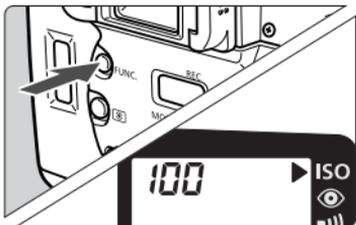
- 巻き上げモードレバーで選びます。
- 選択した巻き上げモードは、応用撮影ゾーンで機能します。
- 連続撮影速度は次のとおりです。

ONE SHOT : 約4コマ/秒

AI SERVO : 約3.5コマ/秒

ISO フィルム感度の手動設定★

フィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定するときや、DXコードが付いていないフィルムを使用するときは、フィルムを入れてから次のようにします。設定できる範囲は、ISO 6~6400です。



1 <▶>マークを<ISO>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(🔆)
- ➡ 現在設定されている感度が表示されず。



2 フィルム感度を設定する

- <🔧>を回します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。



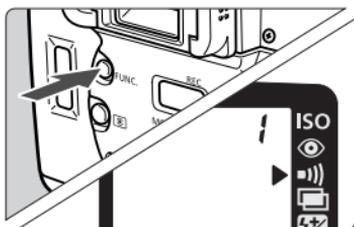
フィルム感度を手動設定しても、DXコードが付いているフィルムに入れ換えると、設定した感度は自動的に解除されます。



DXコードが付いているフィルムに入れ換えても、手動設定したフィルム感度を解除しないようにすることができます。(C.Fn-03-1 :85)

📢 カメラの電子音を消す

すべての撮影モードで電子音を鳴らないようにすることができます。



1 <▶>マークを<📢>に合わせる

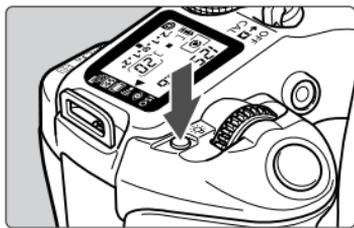
- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(📷)



2 表示を「📢」にする

- <📷>を回します。
- 電子音を鳴らすときは、「!」にします。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

💡 表示パネルの照明

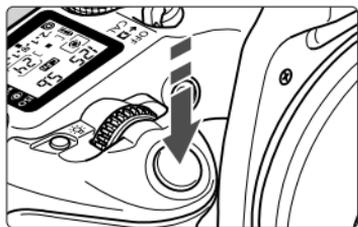


表示パネルには照明機能が付いています。<💡>ボタンを押すと、照明が約5秒間点灯し、点灯中に押すと消えます。暗い場所での撮影で表示パネルが見えにくいときに使用してください。照明は撮影終了後、自動的に消えます。

📷 表示パネルが照明されている間に、撮影に関わる各種ボタン、モードダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。

ミラーアップ撮影★

カスタム機能C.Fn-05-1を設定すると、ミラーアップと露光を別々に行う、ミラーアップ撮影ができます。ミラーショックが気になる近接撮影や望遠レンズを使用するときに活用してください。カスタム機能については、『カスタム機能の設定』(84)を参照してください。ミラーアップ撮影時のカメラの作動は次のようになります。



1 シャッターボタンを全押しする

- ➔ミラーが上がります。
- ➔上がってから約30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。そのときは、もう一度全押しします。

2 再度シャッターボタンを全押しする

- ➔撮影が行われ、ミラーが下がります。
- もう一度撮影するときは、手順1から行います。



- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後すみやかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影をするときは、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するときは、シャッターボタンを全押しし続けてください(タイマー10秒間+バルブ撮影時間)。タイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。



- ミラーアップ撮影には、リモートスイッチRS-60E3(別売)、リモートコントロールRC-1/RC-5(別売)の使用をおすすめします。
- ミラーアップ撮影時は、巻き上げモードを<M>にしても1コマ撮影になります。
- セルフタイマーを設定してミラーアップ撮影すると、シャッターボタン全押しでミラー上がり、10秒後に撮影されます。

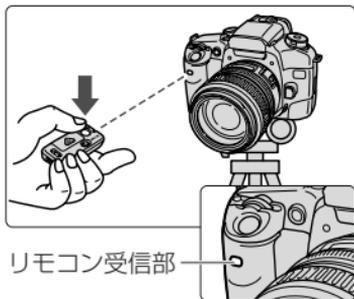
ワイヤレスリモコンを使って撮る

リモートコントローラーRC-1(別売)を使用すると、カメラの正面から約5m離れて撮影できます。



1 巻き上げモードレバーをにする

→表示パネルにが表示されます。



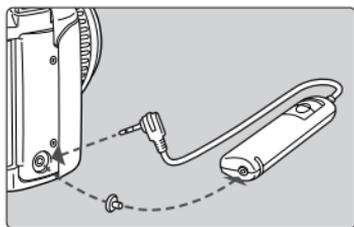
2 撮影する

- リモコンの送信部をカメラのリモコン受信部に向けて送信ボタンを押します。
- リモコンランプが点灯して撮影されます。
- リモコンの操作については、RC-1の使用説明書を参照してください。

⚠ 蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の種類によってカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

- リモートコントローラーRC-5(別売)も使用できます。
- に設定してから約4分間放置すると、省電力のためリモコンの設定は自動的に解除されます。

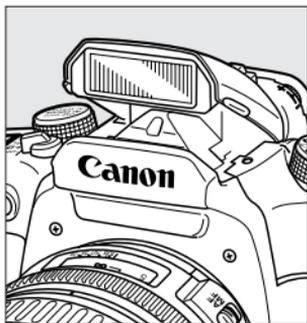
リモートスイッチを使って撮る



リモートスイッチRS-60E3(別売)のプラグをカメラのリモコン端子に差し込み、リモートスイッチのリリースボタンを押して撮影します。

5

ストロボを使った撮影



内蔵ストロボ、またはEOS専用外部ストロボを使用すると、通常のAE撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影ができます。簡単撮影ゾーン（ ）を除く）では全自動で、応用撮影ゾーンでは必要なときにいつでもストロボ撮影ができます。

内蔵ストロボを使用した撮影

簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

暗いときや日中逆光時に、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。
(×)を除く)

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

明るさに関係なく必要なときに内蔵ストロボを手で持ち上げるだけでストロボ撮影ができます。

- P** : カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。シャッター速度(1/60~1/125秒)と絞り数値は、**<□>**(全自動)と同様に自動的に決まります。
- Tv** : 任意のシャッター速度(30秒~1/125秒)を設定したいときに選択します。設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動設定されます。
- Av** : 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。設定した絞り数値に対し、カメラの測光で最適なシャッター速度が自動設定(30秒~1/125秒)されます。夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で適正露出になります。
- 自動スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。
- M** : シャッター速度(バルブ、30秒~1/125秒)と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。主被写体はストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。
- DEP** : **<P>**のストロボ撮影と同じ結果になります。

内蔵ストロボの届く距離 (EF28-105mm F3.5-4.5使用時)

[m]

ISO	28mm		105mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~5.2	1~3.7	1~4.0	1~2.8
200	1~7.4	1~5.2	1~5.7	1~4.0
400	1~10.5	1.2~7.4	1~8.1	1~5.7

- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、レンズでストロボの光がさえぎられて、画面の一部が暗い写真になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がさえぎられます。必ずフードを外してから撮影してください。
- 超望遠レンズ、大口径レンズを使用すると、内蔵ストロボの光がさえぎられることがあります。EOS専用外部ストロボの使用をおすすめします。
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、焦点距離28mmまでです。28mm未満の広角レンズを使用すると、撮影した写真の周囲が暗くなります。

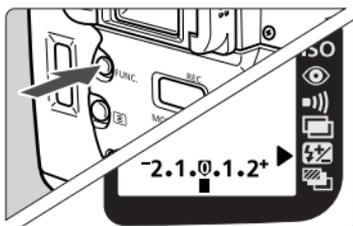
- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。
- <Tv><M>で1/125秒より速いシャッター速度を設定しても、自動的に1/125秒に設定されます。
- AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてAF補助光が被写体に向けて自動投光されます(<  </>を除く)。

- 内蔵ストロボの発光を禁止することができます。(C.Fn-07-3 :86)
- 内蔵ストロボの同調タイミングを後幕シンクロにすることができます。(C.Fn-06-1 :86)
- <Av>でストロボ撮影するときのシャッター速度を1/125秒に固定することができます。(C.Fn-09-1 :87)

内蔵ストロボを使用した撮影

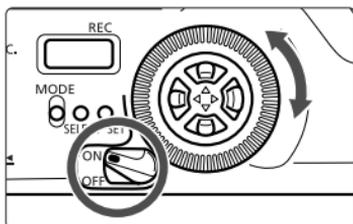
ストロボ調光補正*

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量をカメラで補正することができます。設定できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。



1 <▶>マークを<☑>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(☑6)



2 補正量を設定する

- <☑>スイッチを<ON>にして、<☺>を回します。
- ストロボ調光補正を解除するときは、補正量を<0>の位置に戻します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

プラス補正



マイナス補正



3 撮影する

- 設定した補正量は、モードダイヤルを<OFF>にしても記憶されています。
- メイン電子ダイヤルでも補正量を設定できます。
- EOS専用外部ストロボ使用時も同じ操作でカメラ側からストロボ調光補正ができます。

EOS専用外部ストロボを使用した撮影

このカメラは、EOS専用EXスピードライト、EZ/E/EG/ML/TLスピードライトが使用できます。

EOS専用外部ストロボ使用時の操作については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

EXスピードライト使用時

E-TTL II自動調光(AFフレーム連動、プリ発光・記憶式評価調光)により、通常のAE撮影と同じ感覚で、主被写体重視の自然で雰囲気のあるストロボ撮影が簡単にできます。



EZ/E/EG/ML/TLスピードライト使用時

A-TTL/TTL自動調光(AFフレーム連動、フィルム面反射測光)により、通常のAE撮影と同じ感覚で、簡単にストロボ撮影ができます。

E-TTL II自動調光について

E-TTL IIは、調光制御方式の改善とレンズ距離情報の活用により、従来のE-TTL (プリ発光・記憶式評価調光) 以上の高精度ストロボ調光を実現した、新自動調光システムです。

このカメラでは、どのEXスピードライトを使用しても、E-TTL II自動調光撮影を行うことができます。

-  ● 外部ストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 他社製カメラ専用の(複数の接点を持つ)ストロボや、高圧タイプのストロボなどを使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがあります。

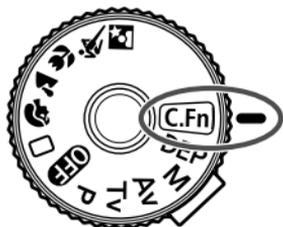
-  ● AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS専用外部ストロボ(AF補助光投光機能を持つ外部ストロボのみ)から、AF補助光が被写体に向けて自動投光されます(〈〉〈〉を除く)。
- EOS専用外部ストロボ使用時におけるこのカメラの区分は、Aタイプ(E-TTL II自動調光対応)カメラです。

EOS専用外部ストロボを使用した撮影

- C.Fn**
- EOS専用外部ストロボの発光を禁止することができます。(C.Fn-07-3 :86)
 - EOS専用外部ストロボの同調タイミングを後幕シンクロにすることができます。(C.Fn-06-1 :86)
 - <Av>でストロボ撮影するときのシャッター速度を1/125秒に固定することができます。(C.Fn-09-1 :87)

6

カスタム機能(C.Fn)



さまざまな撮影スタイルに応じて、このカメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

本文中では「**C.Fn**」マークを付けて、簡単な説明をしましたが、この章ではカスタム機能とその活用方法について詳しく説明しています。

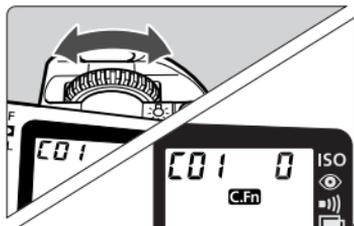
- 設定したカスタム機能は応用撮影ゾーンで機能します。簡単撮影ゾーンでは、設定内容にかかわらず機能しません。

C.Fn カスタム機能の設定



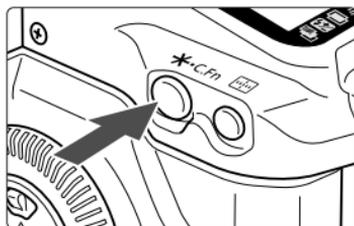
1 モードダイヤルを<C.Fn>にする

- ➔表示パネルに<C.Fn>とカスタム機能番号が表示されます。



2 カスタム機能番号を選ぶ

- <C.Fn>を回します。

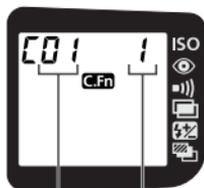


3 設定を変更する

- <*C.Fn>ボタンを押します。押すたびに設定番号が変わります。
- 設定番号「0」が初期状態です。
- 手順2、3を繰り返してその他のカスタム機能を設定します。

4 設定を終了する

- モードダイヤルを撮影モードにします。
- ➔カスタム機能が設定されているときは、表示パネルに<C.Fn>が表示されたままになります。



設定番号

カスタム機能
番号



C.Fnは、Custom Function(カスタムファンクション)の略でカスタム機能のことです。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-01 フィルムの巻き戻し速度

フィルムの巻き戻しを速くすることができます。

- 0：通常(静音)巻き戻し
- 1：高速巻き戻し

C.Fn-02 フィルム巻き戻し完了時のフィルムの先端

巻き戻し完了時に、フィルムの先端をパトローネ(フィルム容器)に巻き込まないようにすることができます。

- 0：残さない(パトローネに巻き込む)
- 1：残す(パトローネに巻き込まない)

C.Fn-03 DXコードによるフィルム感度の自動設定

フィルム装填時にカメラがフィルム(ISO)感度を自動設定しないようにすることができます。

- 0：する
- 1：しない

C.Fn-04 シャッターボタンと〈*〉ボタンの機能

- 0：シャッターボタン半押しでAF作動、〈*〉ボタンでAEロック
- 1：〈*〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック
ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。
- 2：シャッターボタン半押しでAF作動、〈*〉ボタンでAF作動を停止
AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないように、〈*〉ボタンでAFの作動を一時停止させることができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-05 ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

近接撮影や望遠レンズを使用した撮影で、ミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影の操作については、75ページを参照してください。

C.Fn-06 内蔵／EOS専用外部ストロボの同調タイミング

0：先幕シンクロ

1：後幕シンクロ

遅いシャッター速度を設定したときに、光源の軌跡を写し込むことができます。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。同調（シンクロ）タイミング切り換え機能がない、EOS専用外部ストロボ使用時も後幕シンクロができます。切り換え機能をもつストロボでは、ストロボ側の設定が優先されます。

C.Fn-07 AF補助光の投光／ストロボの発光

カメラのAF補助光、EOS専用外部ストロボのAF補助光の投光を行うか、また内蔵、EOS専用外部ストロボの発光を行うかどうかを設定することができます。

0：AF補助光を投光する／ストロボを発光する

1：AF補助光を投光しない／ストロボを発光する

2：外部ストロボ使用時のみAF補助光を投光する／ストロボを発光する

3：AF補助光を投光する／ストロボを発光しない

C.Fn-08 AFフレーム連動の部分測光/FEロック

選択したAFフレームに連動した部分測光/FEロックを行うことができます。構図を優先した撮影に有効です。

0：しない(中央のAFフレームに連動した部分測光/FEロック)

1：する

C.Fn-09 Avモード時のストロボ同調速度

0：自動設定

1：1/125秒に固定

絞り優先AE(Av)モードでのストロボ撮影時に、同調シャッター速度を1/125秒に固定します。暗中ででの撮影時に、シャッター速度が遅くなり、スローシンクロにならないようにすることができます。

C.Fn-10 合焦時のスーパーインポーズ表示

0：する

1：しない

合焦時にファインダー内のAFフレームの赤色点灯(スーパーインポーズ)表示を行いません。点灯がわずらわしいときに設定します。ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn-11 AFフレームの選択方法

0：<AFメニュー>ボタン+<十字キー>

1：<十字キー>で直接選択、<AFメニュー>ボタンでAFフレーム自動選択

タイマー(4)作動中に、<十字キー>で直接AFフレームを選択することができます。AFフレームを頻繁に変えて撮影するときや、AFフレームを変えながらAIサーボAF撮影をするときなどに有効です。

2：<AFメニュー>ボタン+<方向キー>

<AFメニュー>ボタンを押したあと、<方向キー>と<十字キー>でAFフレームを選択します。<方向キー>を回すと横方向、<十字キー>を回すと縦方向にAFフレームが移動します。

C.Fn-12 <AF-ON>ボタンで中央のAFフレームに切り換え

0：しない

1：する

<AF-ON>ボタンを押すと、瞬時に中央のAFフレームに切り換わります。中央のAFフレームを頻繁に使用するときなどに有効です。

C.Fn-13 レンズのAFストップボタンの機能

0：AF停止

1：AF作動

押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。

2：AEロック(タイマー中)

測光タイマー作動中に押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3：AFフレーム選択の切り換え(任意選択⇔自動選択)

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけ自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AIサーボAF作動中に任意選択したAFフレームで追従できなくなったときに有効です。AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央AFフレームが選択されます。

4：AFモードの切り換え(ワンショットAF⇔AIサーボAF)

ワンショットAF時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動・停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチをONにしておくと、押している間だけ手ブレ補正機能が作動します。



AFストップボタンは、大型の超望遠レンズに装備されています。

資料

写真の基本用語解説

AE

Auto Exposure(オートエクスポージャー)の略でカメラが自動的に露出を調節する機能です。カメラに内蔵された露出計で自動的に最適な露出(シャッター速度と絞り数値の組み合わせ)が決まります。

露出

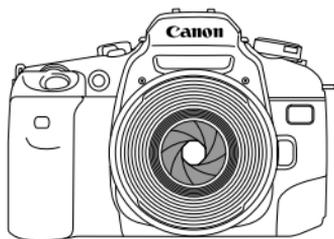
写真を撮るためにフィルムに光を当てることを露出(または露光)といいます。また、フィルム感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。露出は「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量をシャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。このカメラに表示されるシャッター速度は、「4000」(1/4000秒)~「30"」(30秒)、「bulb」(バルブ)となっています。

絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字(焦点距離÷開口径)を絞り数値といいます。このカメラに表示される絞り数値は、取り付けたレンズの種類によって異なりますが、「f10」~「f9.1」となっています。



フィルム(ISO)感度

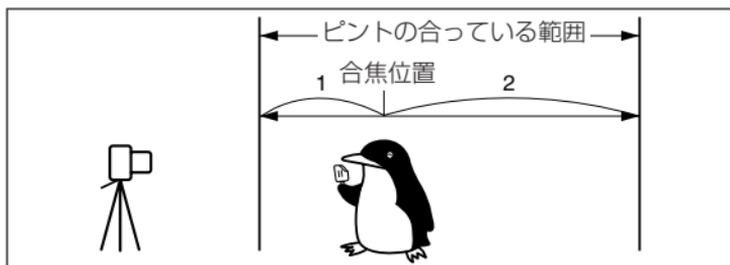
フィルム感度は、フィルムがどのくらいの光にまで感応するかを示すものです。感度はISO(国際標準化機構)で定めた数値で表示されています。数値が大きくなるほど、光に対する感度が高くなり、ISO400以上の高感度フィルムでは比較的暗いところでも写真が写るようになります。このカメラに表示されるフィルム感度は、「6」~「6400」となっています。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする(絞りを閉じる／小口径絞り)ほどピントの合っている範囲が前後に広がります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする(絞りを開く／大口径絞り)とピントが合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- ① 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- ② 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
…望遠レンズよりも広角レンズのほうが被写界深度は深くなる。
- ③ 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- ④ 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前側1に対して奥側が2になる。(下図参照)



絞り数値：F2



絞り数値：F22

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定 ○：選択・設定可能 ※(48)

モードダイヤル								P	Tv	Av	M	DEP	
AF	ワンショット		●	●	●		●	○	○	○	○	●	
	AIサーボ					●		○	○	○	○		
	AIフォーカス	●						○	○	○	○		
	AF フレーム 選択	自動	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
		手動							○	○	○	○	○
		視線	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	AF補助光	●	●		●		●	○	○	○	○	○	
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	
	部分測光							○	○	○	○	○	
	中央部重点平均測光							○	○	○	○	○	
巻き上げ	1枚撮影	●		●	●		●	○	○	○	○	○	
	連続撮影		●			●		○	○	○	○	○	
	セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
内蔵 ストロボ	自動発光	●	●		●		●						
	手動発光							○	○	○	○	○	
	発光禁止			●		●		○	○	○	○	○	
露出補正								○	○	○		○	
AEロック								○	○	○		○	
ファンクション	ISO感度							○	○	○	○	○	
	赤目緩和	○	○		○		○	○	○	○	○	○	
	電子音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	多重露出							○	○	○	○	○	
	調光補正							○	○	○	○	○	
	AEB							○	○	○	○	○	
途中巻き戻し		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カスタム機能								○	○	○	○	○	

AEロックの効果

AFフレーム選択		任意選択／視線入力	自動選択
<input checked="" type="checkbox"/> 評価測光		選択AFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。
<input checked="" type="checkbox"/> 部分測光	C.Fn-08-0	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。
	C.Fn-08-1	選択AFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	
<input type="checkbox"/> 中央部重点平均測光		中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	

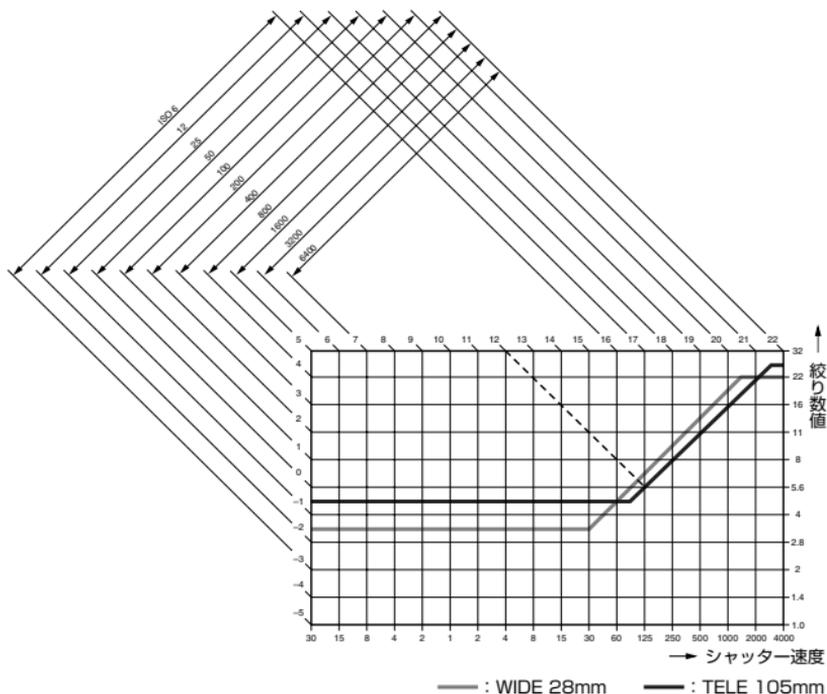
* 視線入力AF時、シャッターボタンを半押しする前に(✳)ボタンを押すと、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

AFモードと巻き上げモードの関係

巻き上げモード	ワンショットAF	AIサーボAF	AIフォーカスAF
<input type="checkbox"/> (1枚撮影)	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光のときは、露出を固定します。(撮影前に露出を記憶)	被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。露出は撮影する瞬間に決まります。	被写体の状態によってワンショットAFからAIサーボAFに自動的に切り換わります。
<input checked="" type="checkbox"/> (連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となります。(1秒間に約4コマ)	上と同じ条件で連続撮影となります。ピント合わせは連続撮影中も作動します。(1秒間に約3.5コマ)	

プログラム線図

EF28-105mm F3.5-4.5を使用して、〈P〉(プログラムAE)に設定したときのプログラム線図を示します。



図の見方

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。

図の左端と上端に目盛られている被写体輝度(EV数値)の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせを線で示しています。

例: TELE 105mmで、被写体輝度がEV12の場合、上端の12の点から右下45°の方向にのびた線とプログラム線図の交点を見ると、シャッター速度1/125、絞り数値F5.6が自動的に設定されることがわかります。

左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は、各フィルム感度に対する測光範囲です。

「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。

表示パネルに表示が出ない

- 電池が消耗している。
➡新しい電池に交換する。(18)
- 電池が逆向きに入っている。
➡電池を正しい向きに入れなおす。(18)

写真がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっている。
➡〈AF〉にする。(20)
- シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしている。
➡シャッターボタンを静かに押す。(21)

シャッターが切れない

- 表示パネルにフィルム枚数が表示されず、〈◎〉が点滅している。
➡フィルムを正しく入れなおす。(22)
- ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない。
➡AFフレームの位置を変えてみる。(41)
それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせる。(51)

表示パネルに〈⏏〉が点滅している

- 電池容量が極端に少なくなっている。
➡新しい電池に交換する。(18)
- 何らかの理由でカメラが誤作動している。
➡シャッターボタンを半押ししてみる。(21)
➡一度電池を取り出してから、もう一度入れなおしてみる。(18)
〈⏏〉の点滅が消えないときは、最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式	ストロボ内蔵、35mm一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体	35mmフィルム
画面サイズ	24×36mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群(EF-Sレンズを除く)
レンズマウント	キヤノンEFマウント(完全電子制御式)

■ファインダー

方式	ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率	上下約90%、左右約92%
倍率	0.7倍(50mmレンズ・∞・-1dpt)
アイポイント	19.5mm
視度調整範囲	-2.5~+0.5dpt
フォーカシングスクリーン	固定式、全面ニューレーザーマツスクリーン
ミラー	クイックリターン式全面ハーフミラー(透過:反射=40:60、ミラー切れ:600mm F4までなし)
ファインダー情報	AF情報(AFフレーム、合焦マーク、視線入力)、露出情報(シャッター速度、絞り数値、露出レベル、AEロック)、ストロボ情報(充電完了、赤目緩和、ハイスピードシンク口、FEロック、ストロボ調光補正)
被写界深度確認	絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式	CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式 (TTL二次結像位相差検出方式)
測距点	7点
測距輝度範囲	EV1~18(常温・ISO100)
フォーカスモード	ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動(MF)
AFフレーム選択	自動選択、任意選択、視線入力による任意選択(視線入力AF)
AFフレーム選択表示	ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光	内蔵ストロボ間欠発光方式 有効距離:中央部 約4.5m/周辺部 約4m

■視線入力

方式	IREDDによる視線位置検出
キャリブレーション	最大登録数:5条件分(学習機能あり)

主な仕様

■露出制御

測光方式	35分割TTL開放測光 ・評価測光(すべてのAFフレームに連動) ・部分測光(中央部・ファインダー画面の約10%) ・中央部重点平均測光
測光範囲	EV1~20(常温・50mm F1.4・ISO100)
露出制御方式	プログラムAE(全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、プログラム)、シャッター優先AE、絞り優先AE、深度優先AE、マニュアル露出、E-TTL II/A-TTL/TTLストロボAE
フィルム感度	ISO6~6400(DXコード対応 ISO25~5000)
露出補正	手動：1/2段ステップ±2段(AEB併用可能) AEB：1/2段ステップ±2段
AEロック	自動：ワンショットAF時、合焦と同時にAEロック 手動：AEロックボタン押しによる
多重露出	最大予約回数：9回

■シャッター

形式	電子制御式フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/4000~30秒(1/2段ステップ)、バルブ、X=1/125秒
リリース方式	ソフトタッチ電磁リリース
セルフタイマー	10秒後撮影
リモコン	リモートスイッチRS-60E3、リモートコントローラーRC-1/RC-5対応

■内蔵ストロボ

形式	リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
調光方式	AFフレーム連動、3分割TTL自動調光
ガイドナンバー	13(ISO100・m)
充電時間	約2秒
充電完了表示	ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角	焦点距離28mmの画角に対応
発光条件	簡単撮影ゾーン(風景・スポーツを除く)： 低輝度・日中逆光時、自動ポップアップ・自動発光 応用撮影ゾーン：手動アップ・常時発光
赤目緩和	ランプ式
ストロボ調光補正	1/2段ステップ±2段

■外部ストロボ EOS専用外部ストロボ使用時、E-TTL II/A-TTL/TTL自動調光

■フィルム給送関係

フィルム装填	自動(1コマ目まで空送り)
巻き上げモード	1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー/リモコン
連続撮影速度	ワンショットAF時：最高約4コマ/秒 AIサーボAF時：最高約3.5コマ/秒
フィルムカウンター	順算式
巻き戻し	自動(途中巻き戻し可能)
巻き戻し時間	サイレント：約13秒、高速：約5秒(24枚撮りフィルム使用時)

■日付/時刻写し込み

オートデート	2019年12月31日まで対応
写し込みデータ	月日年、日月年、年月日、日時分、写し込みなし
写し込み色	オレンジ色
電源	CR2025リチウム電池、1個使用

■カスタマイズ機能.....13種類34項目

■電源

使用電池	CR123A/DL123Aリチウム電池、2本使用
バッテリーチェック	自動(4段階残量表示)
撮影可能フィルム本数 [本]

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温 (+20℃)	115(125)	33(38)	17(19)
低温 (-20℃)	65(70)	19(20)	9(10)

*24枚撮りフィルム使用時、()内は視線入力AF切

表示パネル照明あり
---------	---------

■大きさ・質量

大きさ146.7(幅)×103(高さ)×69(奥行)mm
質量585g(本体のみ)

- ・記載データはすべて当社試験基準によります。
- ・製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索引

英数字

1枚撮影	73
A-TTL/TTL自動調光	81
AE	89
AEB	68
AEロック	70, 92
AFフレーム	41
AF補助光	29
AFモード	38
AFモードダイヤル	15
AIサーボAF	39
AIフォーカスAF	40
Av	58
C.Fn	83
CAL	43
DEP	62
E-TTL II自動調光	81
ISO感度	73, 89
M(Manual)	60
MF	20, 51
P(Program)	54
Tv	56

あ

アイカップ	25, 34
アイピースカバー	34
赤目緩和機能	32
イメージゾーン	14
応用撮影ゾーン	14

か

外部ストロボ	81
--------	----

各部の名称	10
カスタム機能	83
カメラの構え方	26
簡単撮影ゾーン	14
キャリブレーション	43
クローズアップ	30
合焦マーク	13

さ

撮影機能の組み合わせ一覧	91
撮影可能フィルム本数	19
撮影モード	14
サブ電子ダイヤル	16
視線入力	43, 48
視線入力スイッチ	15
自動選択	42
視度調整	25
絞り数値	89
シャッター速度	89
シャッターボタン	
半押し	21
全押し	21
十字キー	16
手動ピント合わせ	51
仕様	95
すぐ撮影したい方のために	8
ストラップの取り付け方	17
ストロボ	78, 81
ストロボ調光補正	80
スピードライト	81
スポーツ	31
セルフタイマー	33
全自動	28

測光方式.....	52	プログラムAE.....	54
た		プログラムシフト.....	55
多重露出.....	72	プログラム線図.....	93
中央部重点平均測光.....	52	ポートレート.....	30
調光補正.....	80	ま	
長時間露光(バルブ).....	71	巻き上げモード.....	73
デート用電池の交換.....	36	巻き上げモードレバー.....	15
電子音.....	74	マニュアルフォーカス.....	51
電池.....	18	ミラーアップ.....	75
動体予測.....	40	メイン電子ダイヤル.....	16
途中巻き戻し.....	24	モードダイヤル.....	14
取り扱い上のご注意.....	6	や	
な		夜景ポートレート.....	31
内蔵ストロボ.....	78	用語解説.....	89
任意選択.....	42	ら	
は		リモートスイッチ.....	76
バッテリーチェック.....	19	リモコン.....	76
バルブ.....	71	レンズ.....	20
被写界深度.....	59, 90	連続撮影.....	73
日付/時刻.....	35	露出.....	89
評価測光.....	52	露出補正.....	67
表示パネル.....	7, 12	わ	
表示パネル照明.....	74	ワイヤレスリモコン.....	76
ファインダー.....	13	ワンショットAF.....	39
ファンクション.....	11		
フィルム.....	22		
フィルム(ISO)感度.....	73, 89		
風景.....	30		
フォーカスロック.....	50		
部分測光.....	52		



キヤノン株式会社 canon.jp

キヤノン販売株式会社 〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のカメラサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために不可欠な部品)は、日本国内において、製造打ち切り後10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンカメラのホームページを開設しています。カメラに関する情報を掲載しているコンテンツ等もございますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社
canon.jp/camera

この使用説明書は、2003年12月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。